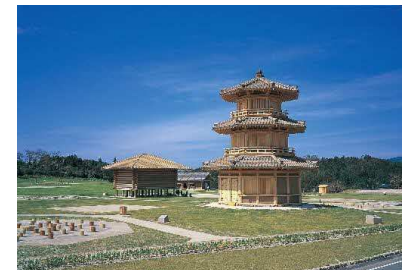


山鹿市都市計画マスタープラン
第2回 策定協議会説明資料

～現況及び課題の整理について～

令和4年12月26日(月) 10:00～



■ 現況及び課題の整理

A. まちづくり全般 P.3

A01. 広域的役割等（位置、沿革 他） P.3

A02. 人口等（人口、世帯、高齢化、将来人口、協働 他） P.6

A03. 産業等（商業、工業、農業、観光 他） P.14

B. 都市計画分野 P.22

B01. 土地利用 P.22

B02. 道路・交通 P.31

B03. 山鹿らしさ（公園緑地、自然環境、景観、地域資源 他） P.38

B04. 生活環境施設（上下水道 他） P.43

B05. 都市防災 P.47

まとめ P.54

①現況等

- ・ 熊本県の北部に位置し、福岡県や大分県と接しています。
- ・ 菊池川流域に市街地が形成されており、同流域の玉名市、菊池市とともに県北の生活圏が形成されています
- ・ 1市4町による合併から17年が経過し、一体のまちづくりとしての熟度も高まっています。
- ・ 平成30年に和水町と定住自立圏形成協定を締結しました。
- ・ 令和4年に熊本市と熊本連携中枢都市圏の形成に係る連携協約を締結しました。

■位置

経緯度		距離		市役所の位置		
東端	東経 130° 50' 45" 北緯 33° 05' 32"	東西 約20km 南北 約27km	東経 130° 41' 29" 北緯 33° 01' 03"	面積(R4.7.1現在)		
西端	東経 130° 37' 46" 北緯 32° 56' 43"					
南端	東経 130° 39' 06" 北緯 32° 55' 56"	山鹿市 299.69km ² 熊本県 7,409.12km ²				
北端	東経 130° 40' 49" 北緯 33° 10' 17"	県に占める割合 4.0% 県内順位 6/45位				

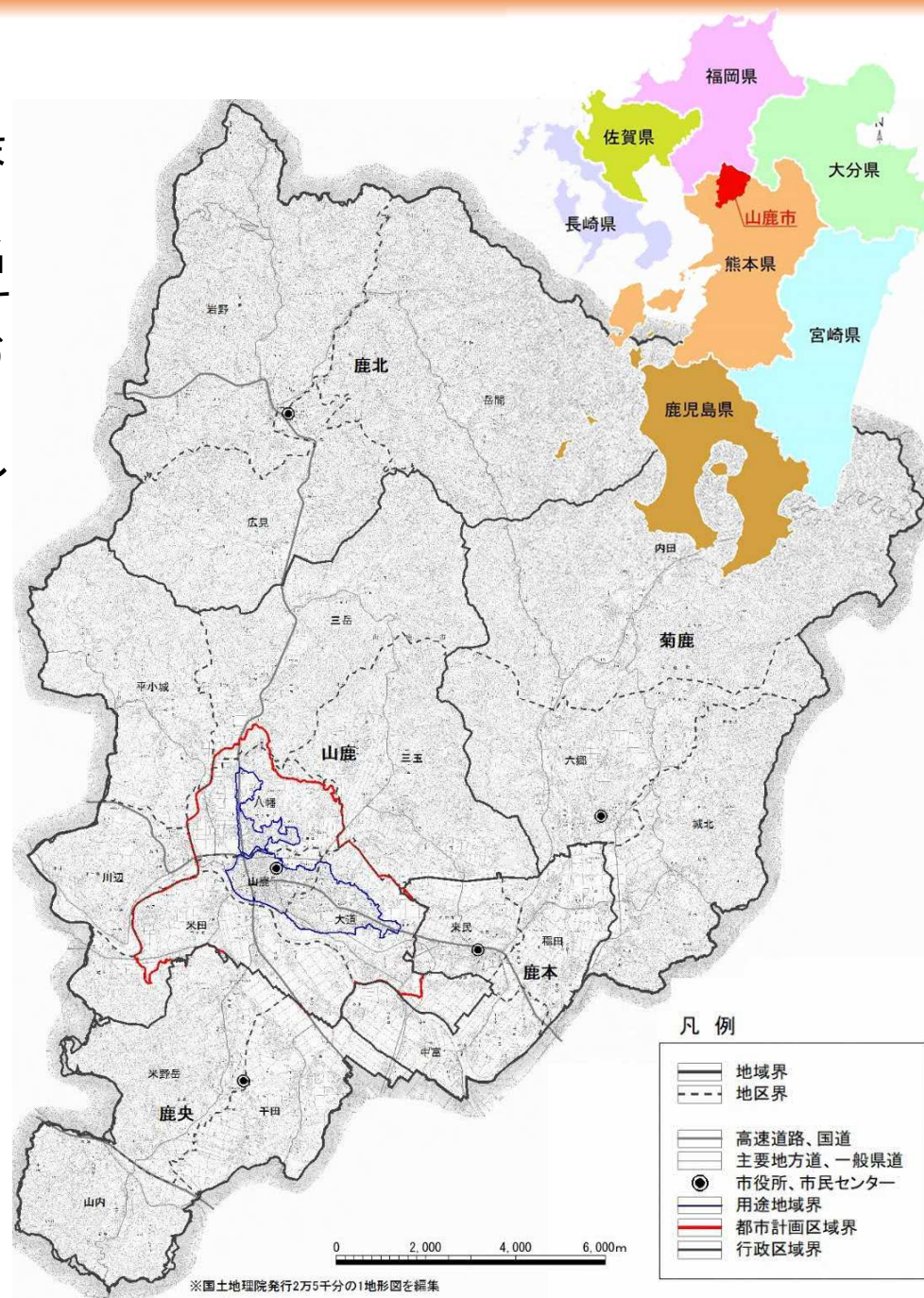
※座標：世界測地系

資料：国土地理院

■市の変遷

市町村名	関係市町村	年月日	合併等
山鹿市	鹿本郡山鹿町・大道村・三玉村・八幡村・三岳村・平小城村・川辺村・米田村	1954.4.1	市制施行
鹿北村	岩野村・岳間村・広見村	1954.4.1	新設
菊鹿村	六郷村・内田村・菊池郡城北村	1955.4.1	新設
鹿本町	来民町・稲田村・中富村	1955.4.1	新設
鹿央村	千田村・米野岳村・山内村	1955.7.1	新設
鹿北町	鹿北村	1963.12.1	町制施行
菊鹿町	菊鹿村	1965.10.1	町制施行
鹿央町	鹿央村	1965.11.1	町制施行
山鹿市	山鹿市・鹿本郡鹿北町・菊鹿町・鹿本町・鹿央町	2005.1.15	新設

資料：庁内資料



※国土地理院発行2万5千分の1地形図を編集

②上位関連計画・社会経済情勢

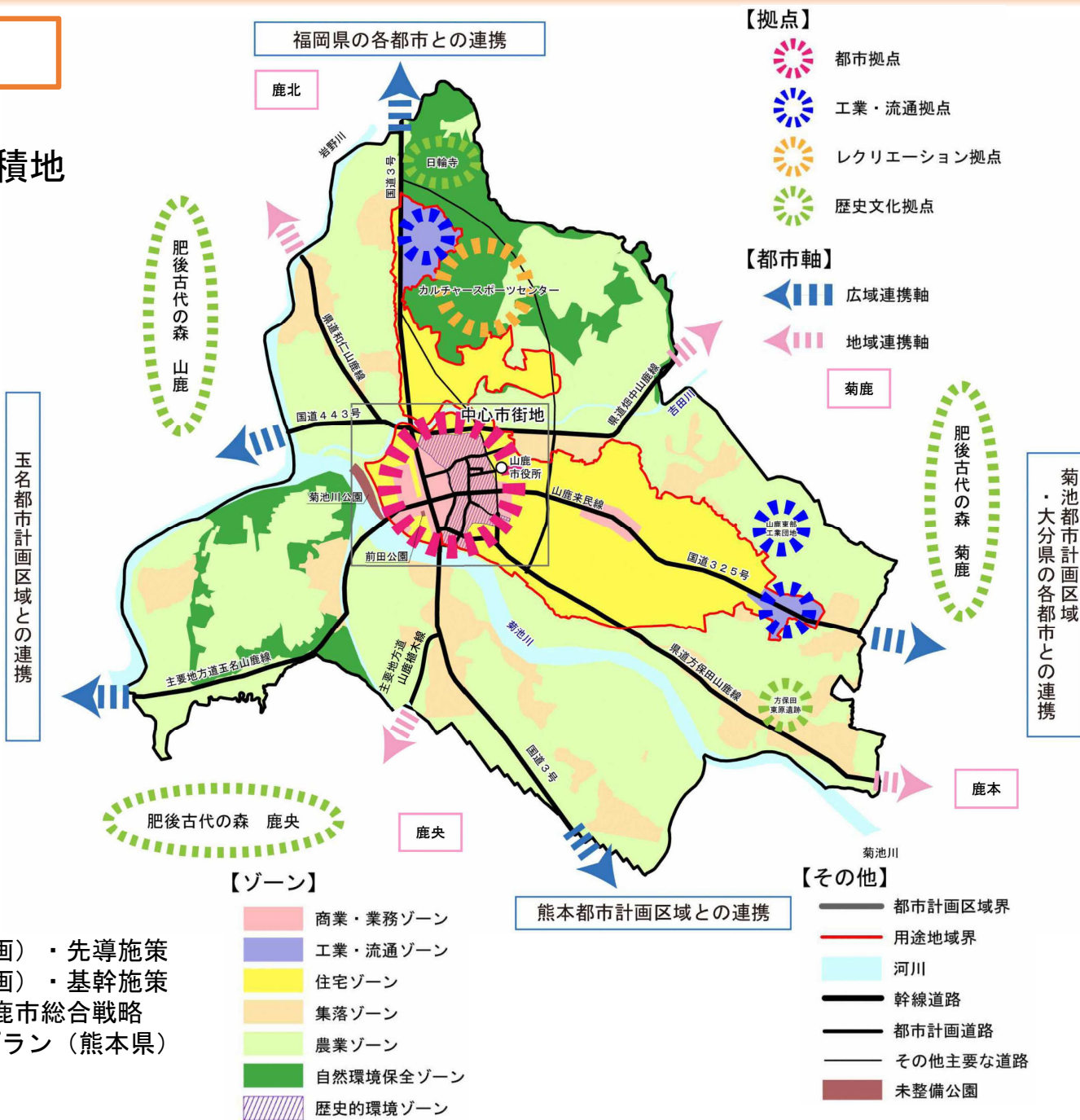
【区域：案】

山鹿都市圏における産業や業務の集積地や広域行政の中心。

【戦略】

広域・施策間連携

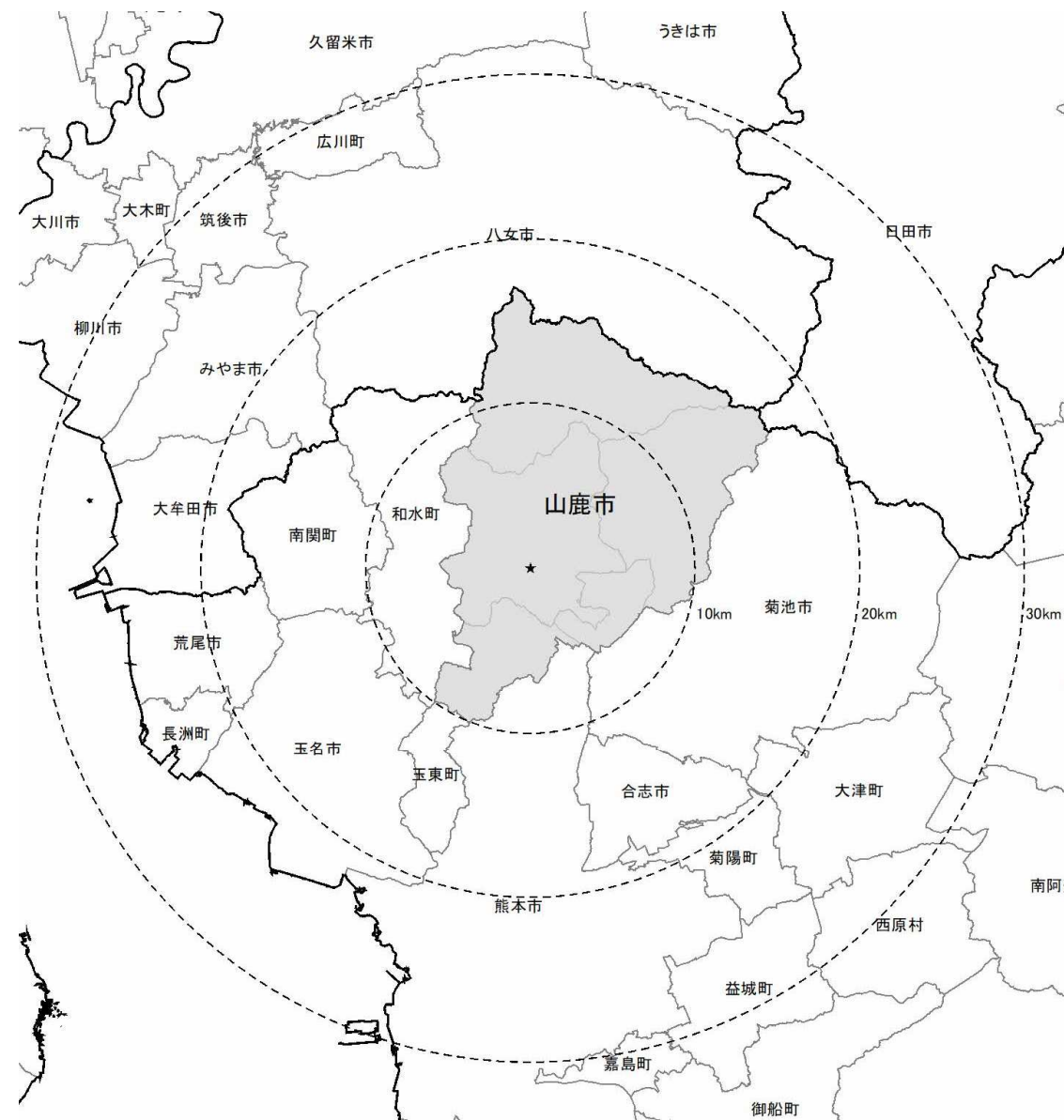
- 【総先導】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・先導施策
- 【総基幹】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・基幹施策
- 【戦略】：(R2.3) まち・ひと・しごと創生 第2期山鹿市総合戦略
- 【区域】：(R4改定：案) 山鹿都市計画区域マスタープラン（熊本県）
- 【社経】：社会経済情勢



【まちづくりの課題】

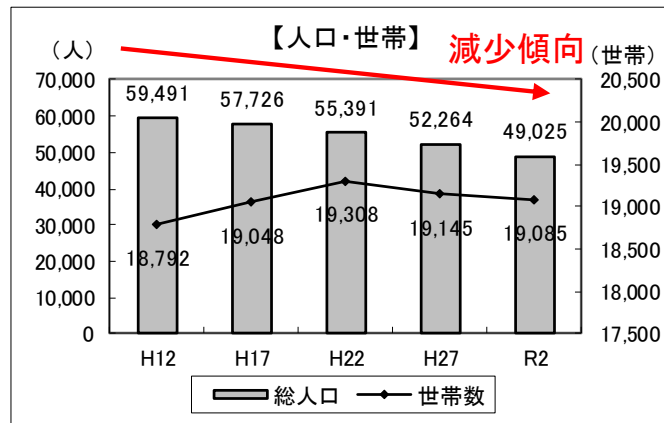
⇒⇒熊本県北部の都市として、
熊本市、玉名市、菊池市、和
水町と連携した広域的なまち
づくり

⇒合併から17年の実績、地域の特
性を生かした一体のまちづく
り



①現況等

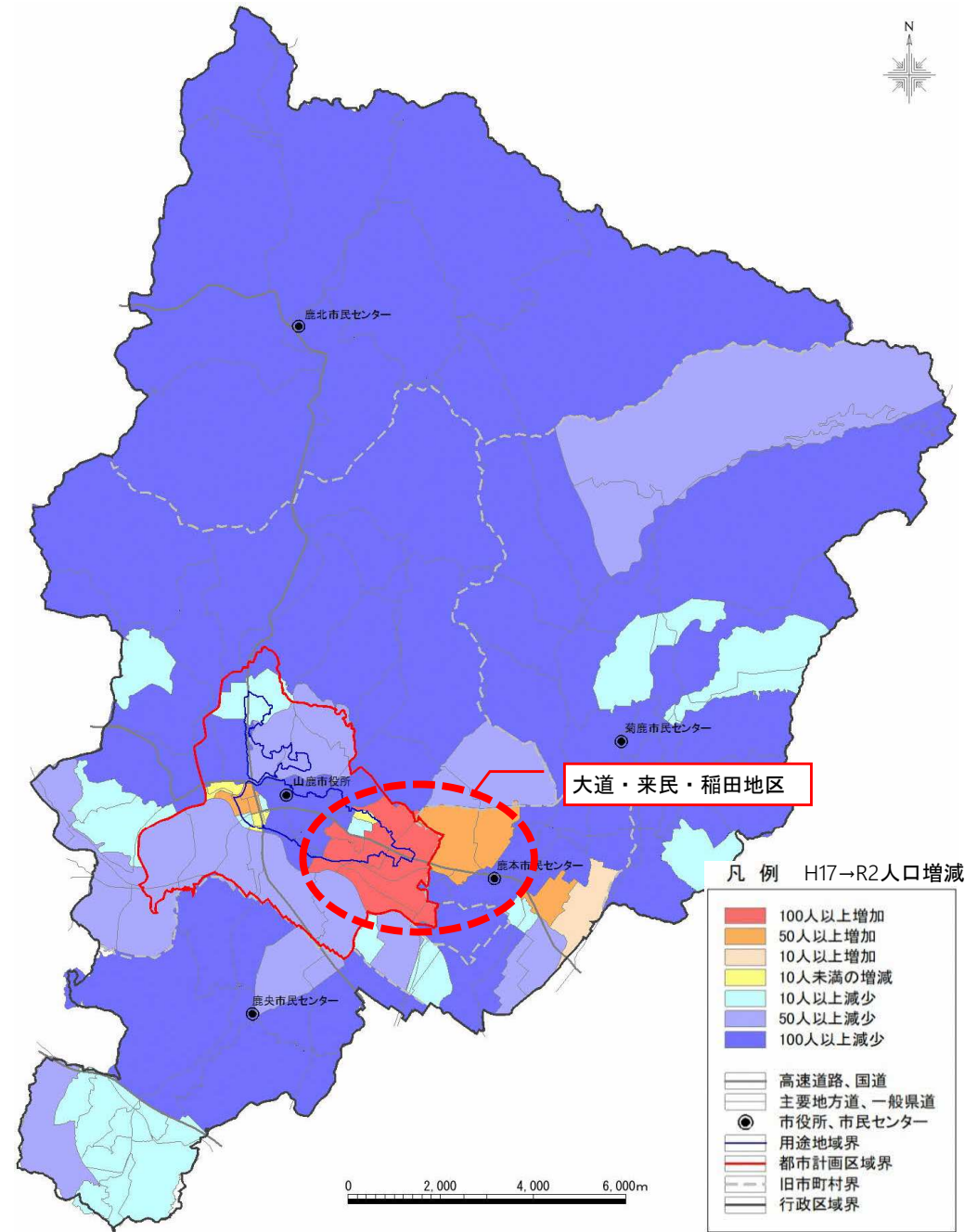
- ・ 総人口は減少を続け、令和2年現在49,025人、世帯数も減少に転じ、令和2年現在19,085戸となっており、今後もこの傾向が続くと予測されます。
- ・ 人口は減少傾向にありますが、交通利便性の高い国道325号沿道周辺の大道・来民・稲田地区では一部増加する区域もみられます。



(単位: 人、世帯)

	山鹿市					熊本県
	H12	H17	H22	H27	R2	R2
総人口	59,491	57,726	55,391	52,264	49,025	1,738,301
世帯数	18,792	19,048	19,308	19,145	19,085	719,154
世帯人員	3.17	3.03	2.87	2.73	2.57	2.42

資料: 国勢調査



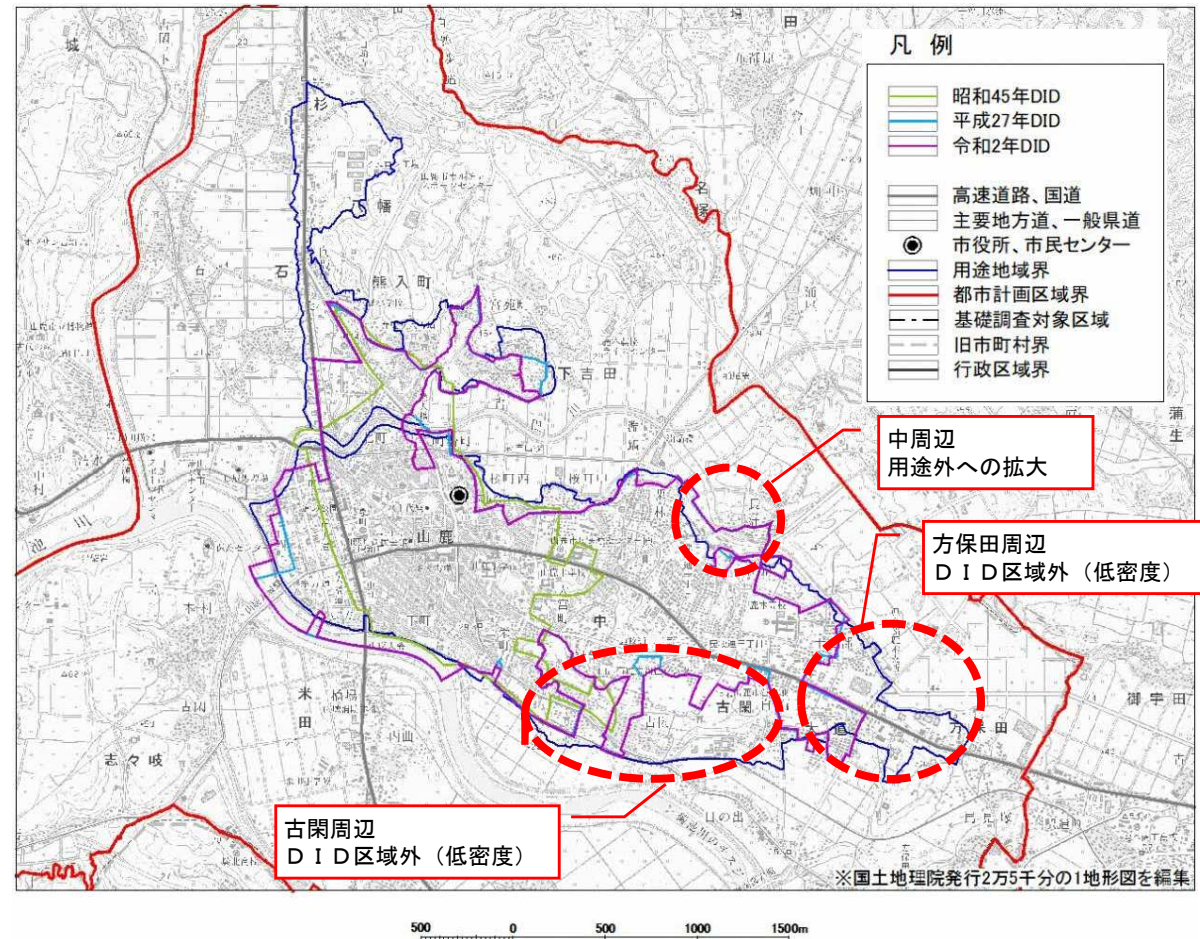
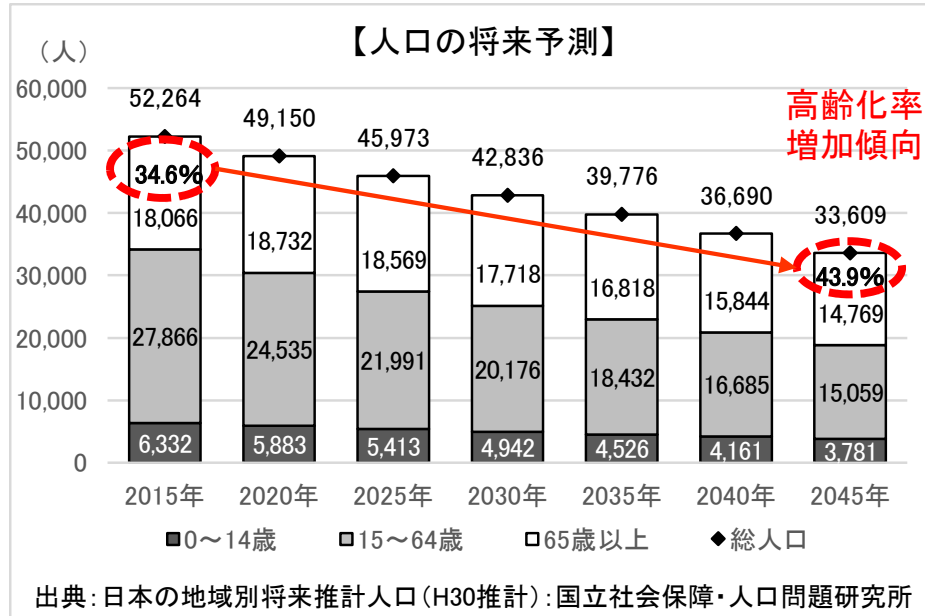
①現況等

- ・人口集中地区の面積が拡大する一方で、人口は減少し、40人/ha未満の低密度な市街地が拡散しています。
- ・高齢化の進展に伴い、高齢者の移動困難性の高まりが懸念されます。

(単位:人、ha、人/ha)

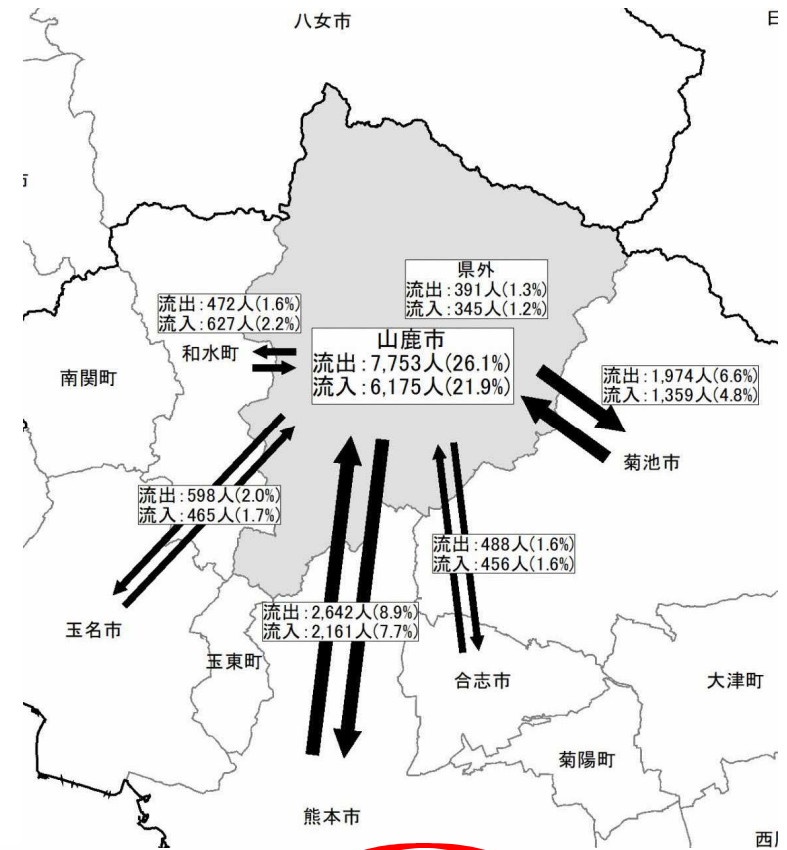
	山鹿市					熊本県
	H12	H17	H22	H27	R2	R2
DID人口	12,653	12,515	12,351	12,675	12,328	865,846
DID面積	314	321	329	343	342.0	16,597.0
DID人口密度	40.4	39.0	37.5	37.0	36.1	52.2

資料:国勢調査

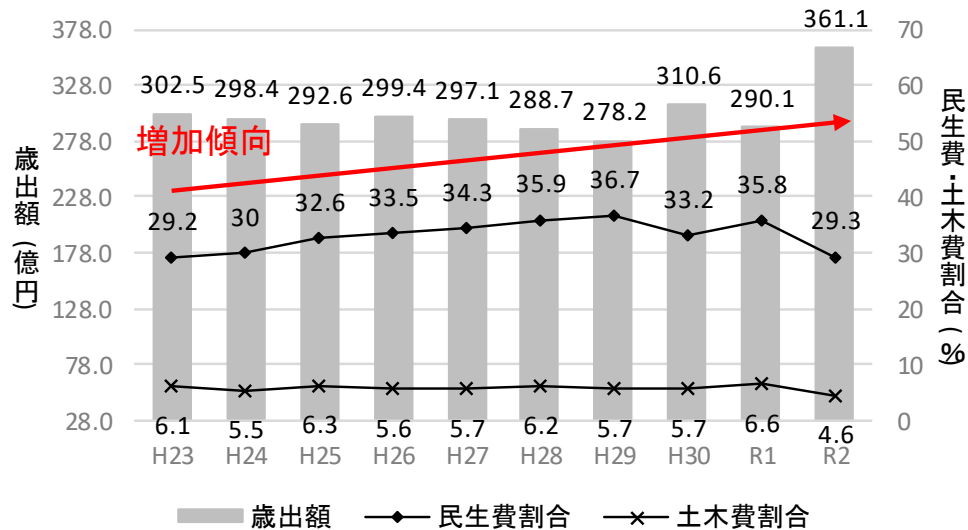


①現況等

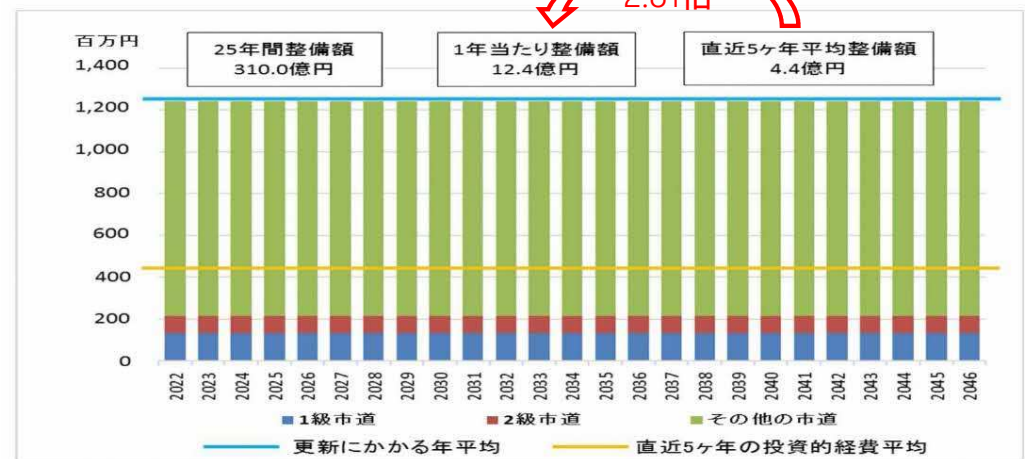
- ・通勤・通学状況は流出超過であり、住機能の比重が高い都市であることが伺えます。
- ・歳出の状況を見ると、福祉等に支出される民生費割合が増加傾向にあります。
- ・公共施設の更新予測をみると、市道の整備費12.4億円/年は直近5ヶ年の平均整備額の2.81倍、公共下水道の整備費6.0億円/年は直近5ヶ年の平均整備額の3.75倍に相当します。



【歳出額及び民生費・土木費割合】



市道



②上位関連計画・社会経済情勢

【総先導】

移住定住支援事業

【総基幹】

総合戦略の推進、持続可能な財政運営の確立、移住定住の促進、地域づくりの推進

【戦略】

地域の未来を支える人材の育成・確保、移住定住の促進、市民共生のまちづくり、安心して子育てできる環境づくり

【区域：案】

人口減少、少子高齢化への対応、厳しい都市経営の現状

【社経】

人口減少・少子高齢化社会の進展、価値観の多様性・ニューノーマルの時代、高度情報技術の発展・普及

【総先導】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・先導施策

【総基幹】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・基幹施策

【戦略】：(R2.3) まち・ひと・しごと創生 第2期山鹿市総合戦略

【区域】：(R4改定：案) 山鹿都市計画区域マスタープラン（熊本県）

【社経】：社会経済情勢

③市民意向

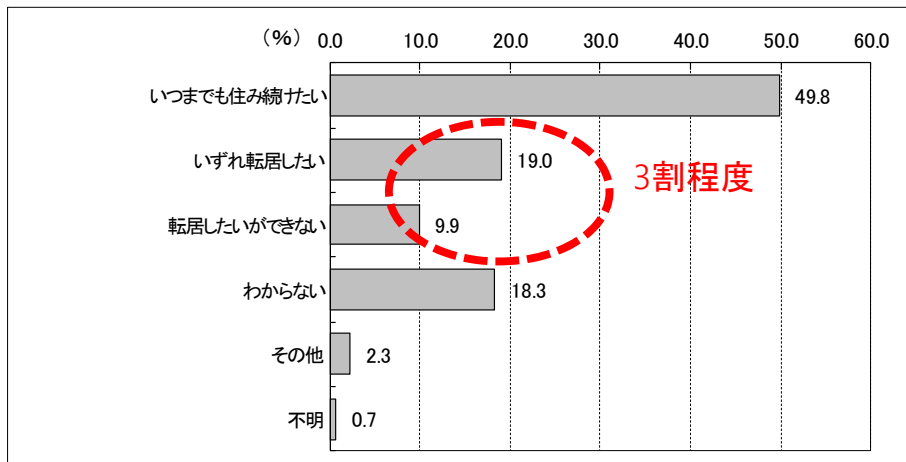
- 【問9】 居住地域の満足度・重要度では、鹿北地域では「高齢者・障がい者の暮らしやすさ」に関する施策の強化・推進が求められています。
- 【問10】 定住意向では、3割程度の人が転居を考えており、若年層ではその傾向が強くなっています。
- 【問12】 転居理由では、鹿北地域では病院や福祉施設への不満が伺えます。
- 【問16】 20年後の山鹿市では、子育て、福祉・医療の充実したまちが求められています。

問10_定住意向

SA

【回答総数 1016 人】

① いつまでも住み続けたい	506 件 (49.8 %)
② いずれ転居したい	193 件 (19.0 %)
③ 転居したいができない	101 件 (9.9 %)
④ わからない	186 件 (18.3 %)
⑤ その他	23 件 (2.3 %)
不明	7 件 (0.7 %)

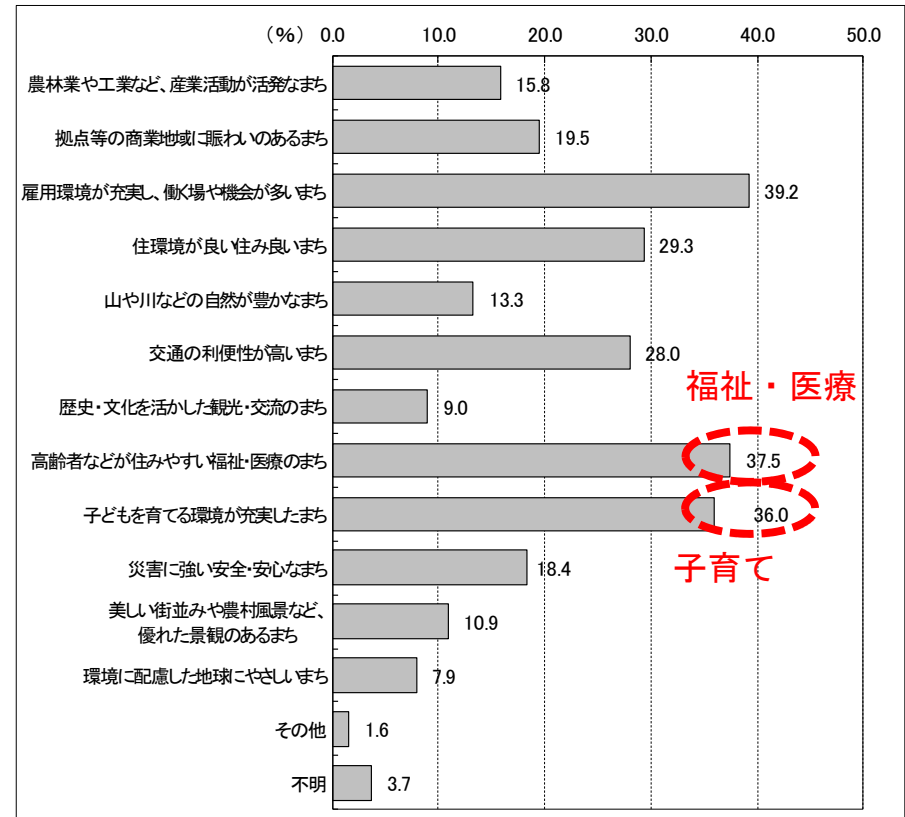


問16_20年後の山鹿市

3LA

【回答総数 1016 人】

① 農林業や工業など、産業活動が活発なまち	161 件 (15.8 %)
② 拠点等の商業地域に賑わいのあるまち	198 件 (19.5 %)
③ 雇用環境が充実し、働く場や機会が多いまち	398 件 (39.2 %)
④ 住環境が良い住み良いまち	298 件 (29.3 %)
⑤ 山や川などの自然が豊かなまち	135 件 (13.3 %)
⑥ 交通の利便性が高いまち	284 件 (28.0 %)
⑦ 歴史・文化を活かした観光・交流のまち	91 件 (9.0 %)
⑧ 高齢者などが住みやすい福祉・医療のまち	381 件 (37.5 %)
⑨ 子どもを育てる環境が充実したまち	366 件 (36.0 %)
⑩ 災害に強い安全・安心なまち	187 件 (18.4 %)
⑪ 美しい街並みや農村風景など、優れた景観のあるまち	111 件 (10.9 %)
⑫ 環境に配慮した地球にやさしいまち	80 件 (7.9 %)
⑬ その他	16 件 (1.6 %)
不明	38 件 (3.7 %)



③市民意向

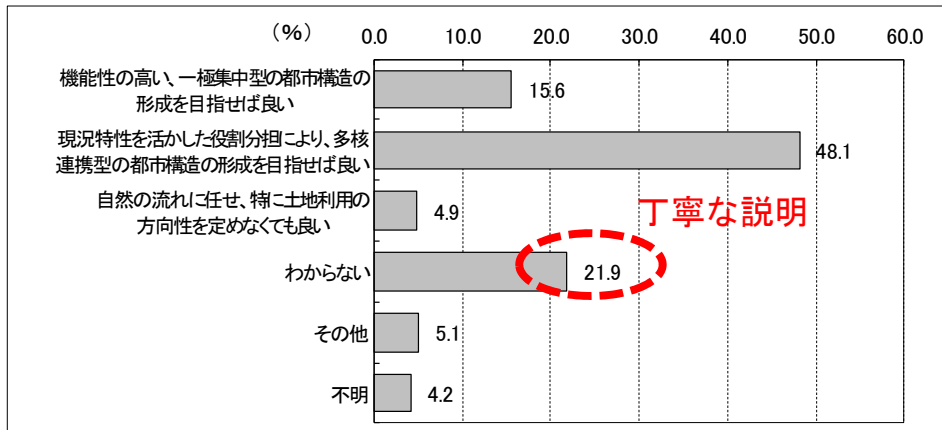
【問17】人口動向では、ほぼ全ての方が人口減少の状況を理解しています。

【問19】目指すべき都市構造では、コンパクトシティへ一定の理解が得られているものの、丁寧な説明でより理解を深めることが重要です。

【問32】協働のまちづくりでは、情報発信が求められています。

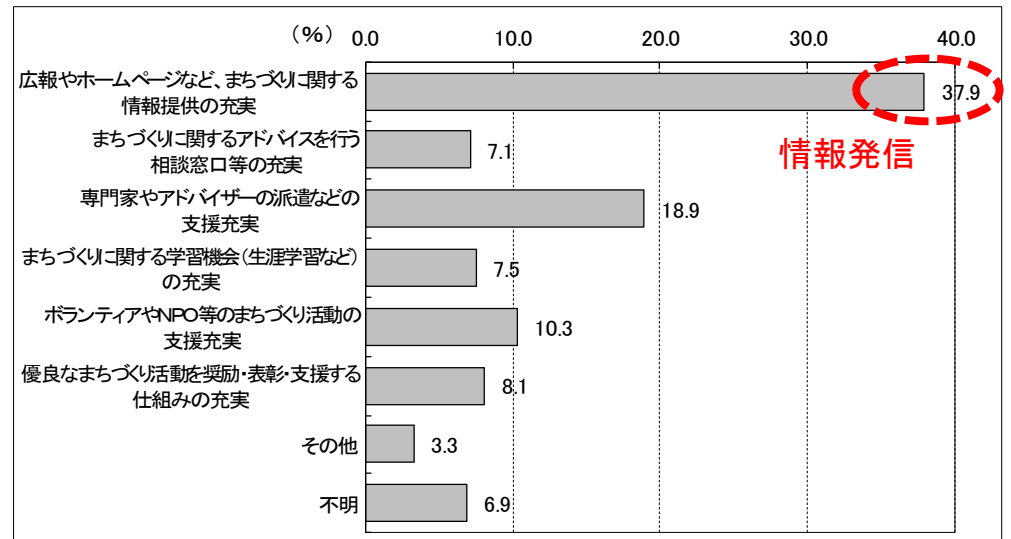
問19_目指すべき都市構造

	回答総数	割合
① 機能性の高い、一極集中型の都市構造の形成を目指せば良い	159件	15.6%
② 現況特性を活かした役割分担により、多核連携型の都市構造の形成を目指せば良い	489件	48.1%
③ 自然の流れに任せ、特に土地利用の方向性を定めなくても良い	50件	4.9%
④ わからない	223件	21.9%
⑤ その他	52件	5.1%
不明	43件	4.2%



問32_協働のまちづくりについて

	回答総数	割合
① 広報やホームページなど、まちづくりに関する情報提供の充実	385件	37.9%
② まちづくりに関するアドバイスをを行う相談窓口等の充実	72件	7.1%
③ 専門家やアドバイザーの派遣などの支援充実	192件	18.9%
④ まちづくりに関する学習機会(生涯学習など)の充実	76件	7.5%
⑤ ボランティアやNPO等のまちづくり活動の支援充実	105件	10.3%
⑥ 優良なまちづくり活動を奨励・表彰・支援する仕組みの充実	82件	8.1%
⑦ その他	34件	3.3%
不明	70件	6.9%



④現行計画の検証・各課ヒアリング

【ヒア】人口減少対策（移住定住、企業誘致、子育て支援）の複合的かつ継続的な実施

【ヒア】地域協働組織の機能強化による地域自治機能の維持

【ヒア】障がい者、高齢者など配慮が必要な方も住みやすいまちづくり

【ヒア】市営住宅の空き室率が上昇、子育て世代の入居が少ない

【ヒア】伝統行事の担い手減少、社会的孤立の拡大

【ヒア】価値観の多様化

【取組実績】

- ≫地域活性化・移住促進等の実現に向けた「低未利用土地等の譲渡に係る所得税及び個人住民税の特例措置」
- ≫地域づくり推進補助事業
- ≫地域子育て支援拠点事業

など

【まちづくりの課題】

⇒人口減少や高齢化への対応、都市活力の維持向上を目指した、利便性が高く、投資効果の高いコンパクトなまちづくり

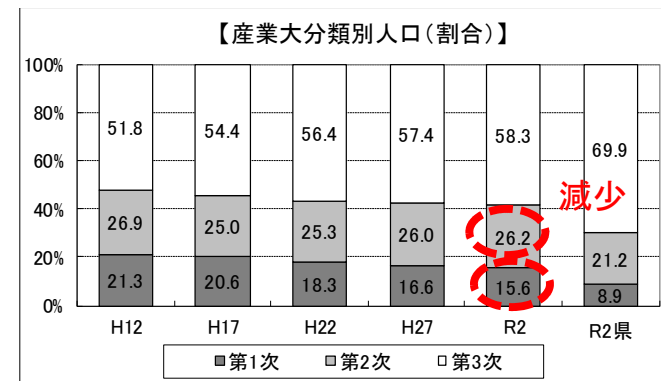
⇒選ばれるまち、住み続けたいまちを目指した、住環境整備・企業立地など移住定住環境の充実

⇒医療・福祉・子育て機能の充実など、全ての人が安心して暮らせるまちづくり

⇒デジタル時代・ウイズコロナ時代に向けて、多様な暮らしの場の提供など、ニューノーマルに対応したまちづくり

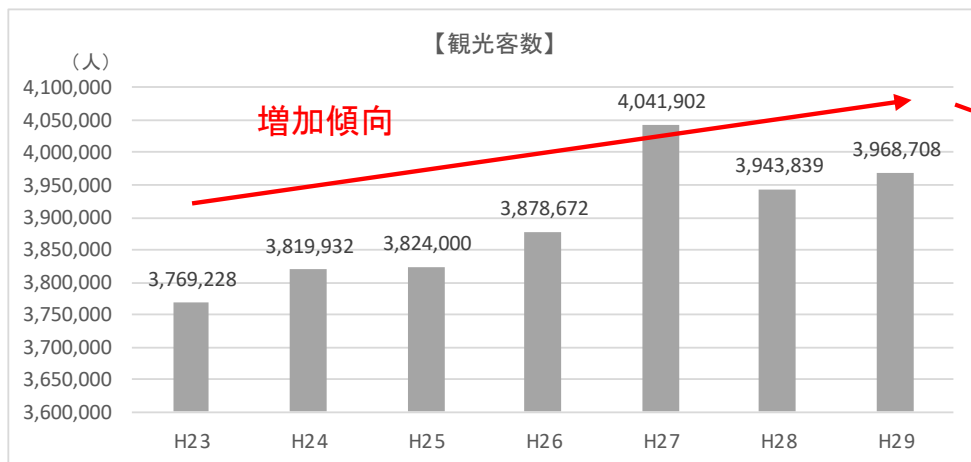
①現況等

- ・第1次及び第2次産業の人口割合は減少し、第3次産業の人口割合が増加しています。
- ・製造業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等は増加傾向となっています。（R2は今後公表予定）
- ・観光客数は増加傾向でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020年から大幅に減少しました。



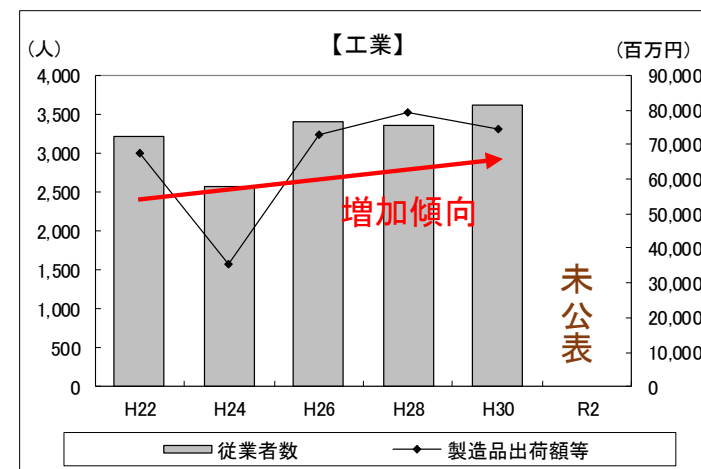
	山鹿市					熊本県
	H12	H17	H22	H27	R2	R2
就業人口	29,688	28,737	26,563	25,569	24,382	819,259
第1次産業	6,317	5,894	4,824	4,219	3,761	71,768
第2次産業	7,962	7,160	6,655	6,628	6,324	169,965
第3次産業	15,373	15,590	14,820	14,621	14,084	560,851
分類不能	36	93	264	101	213	16,675
就業率	49.9	49.8	48.0	48.9	49.7	47.1

※割合の総数に分類不能含まない 資料: 国勢調査



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
延べ日帰り客	3,453,575	3,508,322	3,535,636	3,603,285	3,757,243	3,629,748	3,662,139
延べ宿泊客	315,653	311,610	288,364	275,387	284,659	314,091	306,569
合計	3,769,228	3,819,932	3,824,000	3,878,672	4,041,902	3,943,839	3,968,708

資料: 令和2年熊本県観光統計表



	H22	H24	H26	H28	H30	R2
事業所数	事業所 91	90	94	95	101	0
従業者数	人 3,213	2,561	3,395	3,366	3,609	0
製造品出荷額等	百万円 67,315	35,441	73,115	79,025	74,410	0

資料: 工業統計調査(4人以上の事業所)

②上位関連計画・社会経済情勢

【総先導】

まちなみ再生事業、創業・開業支援空き店舗対策事業、企業誘致対策事業

【総基幹】

空き家対策の推進、農業農村の多面的機能の維持、企業誘致及び起業（創業）支援、にぎわいの創出、農地集積・集約化への支援、街なみ環境整備の推進

【戦略】

地域産業の磨き上げと競争力強化、新たな交流の促進、食・農・観のステップアップチャレンジ

【区域：案】

活力有る都市づくり、広域的な交流・連携の活性化

【社経】

価値観の多様性・ニューノーマルの時代、高度情報技術の発展・普及、国内外の経済環境の変化

【総先導】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・先導施策

【総基幹】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・基幹施策

【戦略】：(R2.3) まち・ひと・しごと創生 第2期山鹿市総合戦略

【区域】：(R4改定：案) 山鹿都市計画区域マスタープラン（熊本県）

【社経】：社会経済情勢

③市民意向

【問9】居住地域の満足度・重要度では、菊鹿・鹿央地域では「日常的な買い物の利便性」に関する施策の強化・推進が求められています。

【問11】定住理由では、土地の愛着以外では、自然環境や日常的な買い物への好感が伺えます。

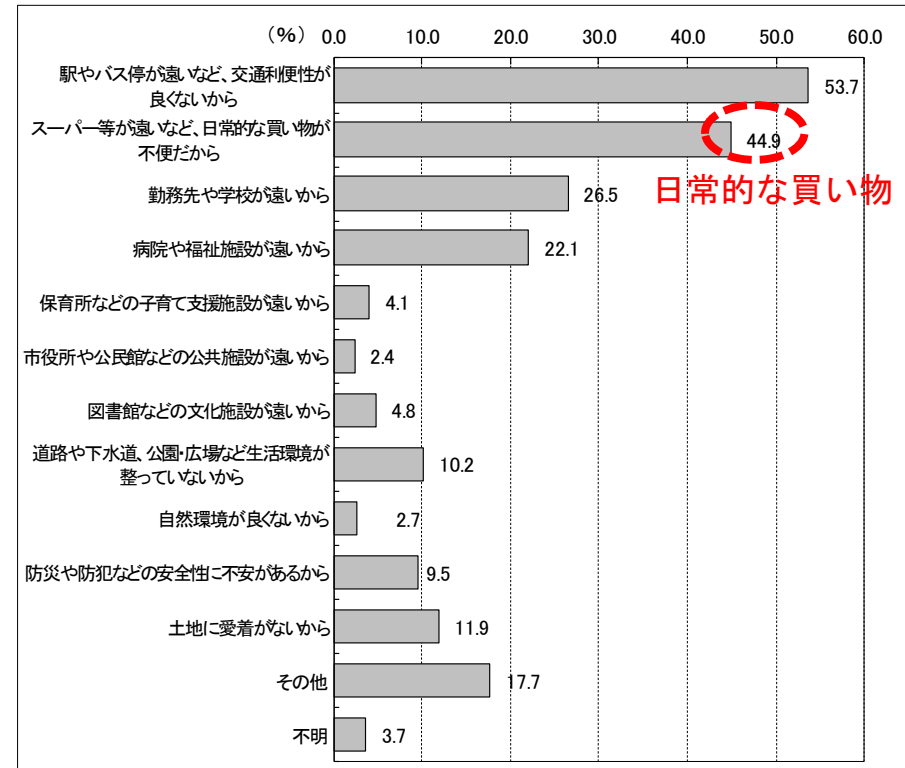
【問12】転居理由では、全体として、日常的な買い物への不満が伺えます。また、若年層では通勤・通学、鹿北・菊鹿・鹿央地域では日常的な買い物への不満が伺えます。

問12_転居理由(問10で「2・3」と回答)

	割合												不明				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
	性が良いから	駅やバス停が遠いから	買い物が不便だから	スーパーやコンビニが遠いから	勤務先や学校が遠いから	病院や福祉施設が遠いから	保育園などの子育て支援施設が遠いから	遠いから	市役所や公民館などの文化施設が遠いから	図書館などの文化施設が遠いから	道路や下水道、公園・広場など生活環境が良くないから	自然環境が良くないから	あるから	防災や防犯などの安全性に不安があるから	土地に愛着がないから	その他	
全体	53.7	44.9	26.5	22.1	4.1	2.4	4.8	10.2	2.7	9.5	11.9	17.7	3.7				
山鹿	52.3	37.8	26.2	17.4	5.2	2.3	5.2	10.5	2.3	9.3	13.4	19.8	4.1				
鹿北	32.0	76.0	32.0	44.0	4.0	8.0	12.0	12.0	4.0	24.0	4.0	4.0	4.0				
菊鹿	66.7	71.8	28.2	35.9	2.6	2.6	2.6	5.1	0.0	5.1	5.1	12.8	2.6				
鹿本	66.7	27.8	19.4	16.7	2.8	0.0	0.0	11.1	8.3	5.6	22.2	22.2	0.0				
鹿央	38.5	50.0	27.8	22.2	0.0	0.0	5.6	16.7	0.0	11.1	0.0	16.7	5.6				
不明	75.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0				

問12_転居理由(問10で「2・3」と回答)

	【回答総数	294人
① 駅やバス停が遠いなど、交通利便性が良くないから	158件	(53.7%)
② スーパー等が遠いなど、日常的な買い物が不便だから	132件	(44.9%)
③ 勤務先や学校が遠いから	78件	(26.5%)
④ 病院や福祉施設が遠いから	65件	(22.1%)
⑤ 保育所などの子育て支援施設が遠いから	12件	(4.1%)
⑥ 市役所や公民館などの公共施設が遠いから	7件	(2.4%)
⑦ 図書館などの文化施設が遠いから	14件	(4.8%)
⑧ 道路や下水道、公園・広場など生活環境が整っていないから	30件	(10.2%)
⑨ 自然環境が良くないから	8件	(2.7%)
⑩ 防災や防犯などの安全性に不安があるから	28件	(9.5%)
⑪ 土地に愛着がないから	35件	(11.9%)
⑫ その他	52件	(17.7%)
不明	11件	(3.7%)

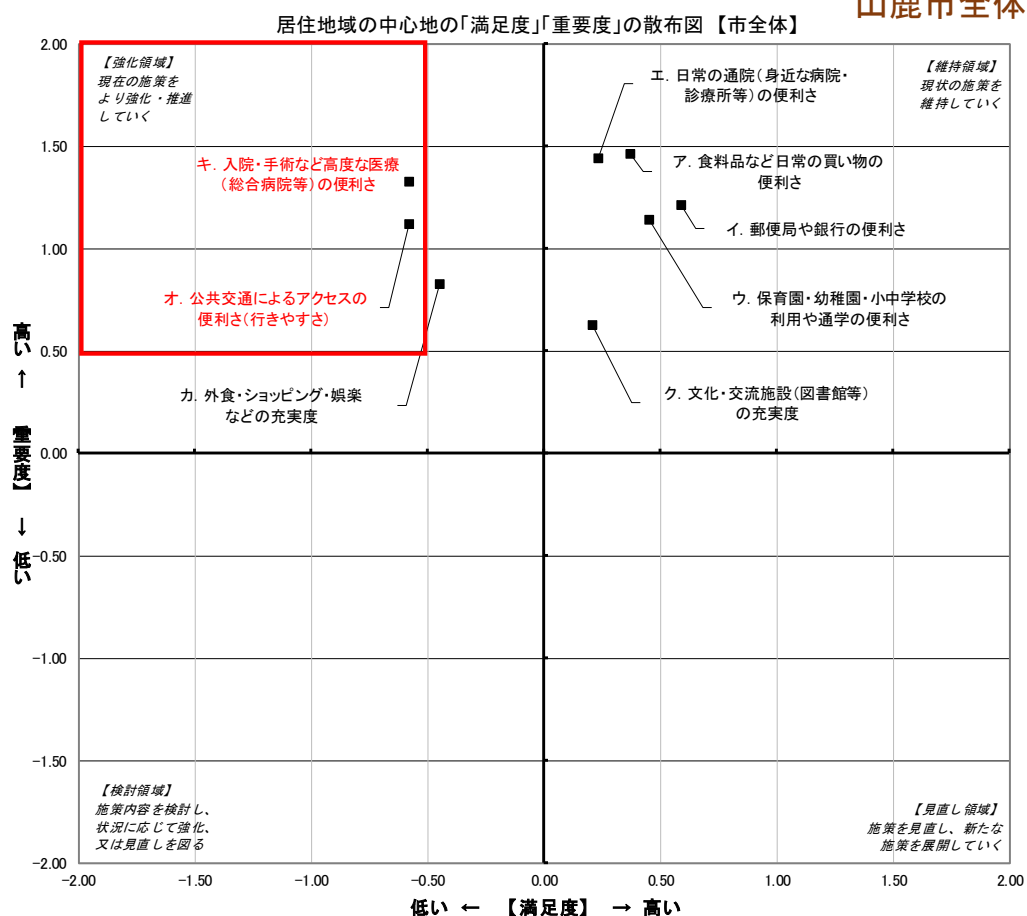


③市民意向

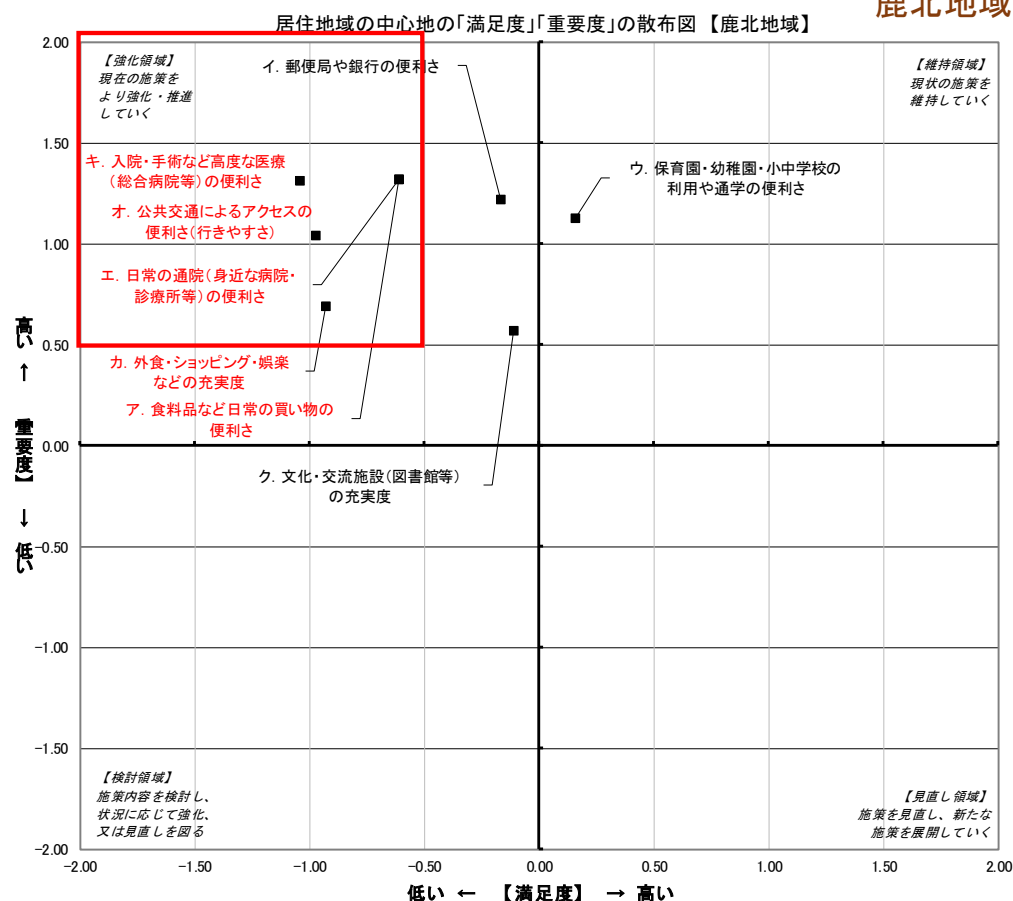
【問16】20年後の山鹿市では、雇用環境の充実したまちが求められています。

【問20】居住地域の中心地の満足度・重要度では、「高度な医療」や「公共交通の利便性」などが求められています。また、鹿北・菊鹿・鹿央地域では「日常の買い物」「日常の通院」「外食・ショッピング・娯楽など」についても求められています。

山鹿市全体



鹿北地域



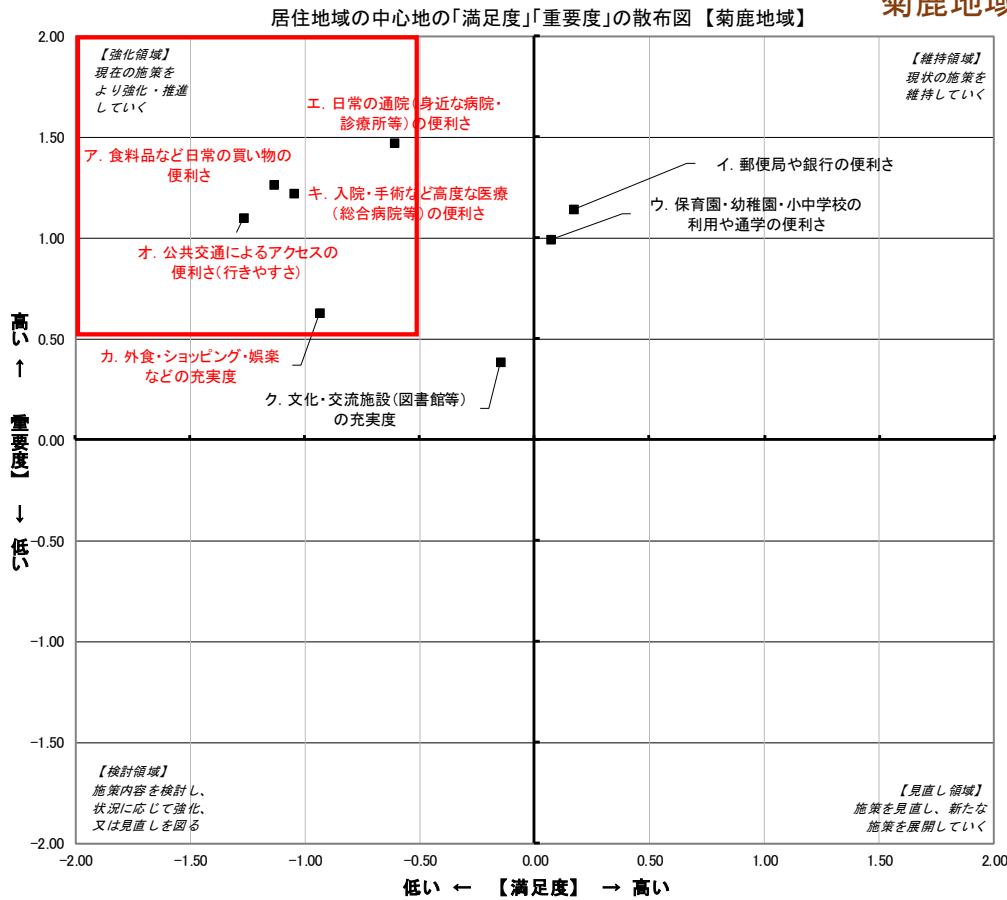
※満足度と重要度の数値は、各設問の「満足・重要」を2点、「やや満足・やや重要」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満・あまり重要でない」を-1点、「不満・重要でない」を-2点として算出した得点の平均である。

※満足度と重要度の数値は、各設問の「満足・重要」を2点、「やや満足・やや重要」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満・あまり重要でない」を-1点、「不満・重要でない」を-2点として算出した得点の平均である。

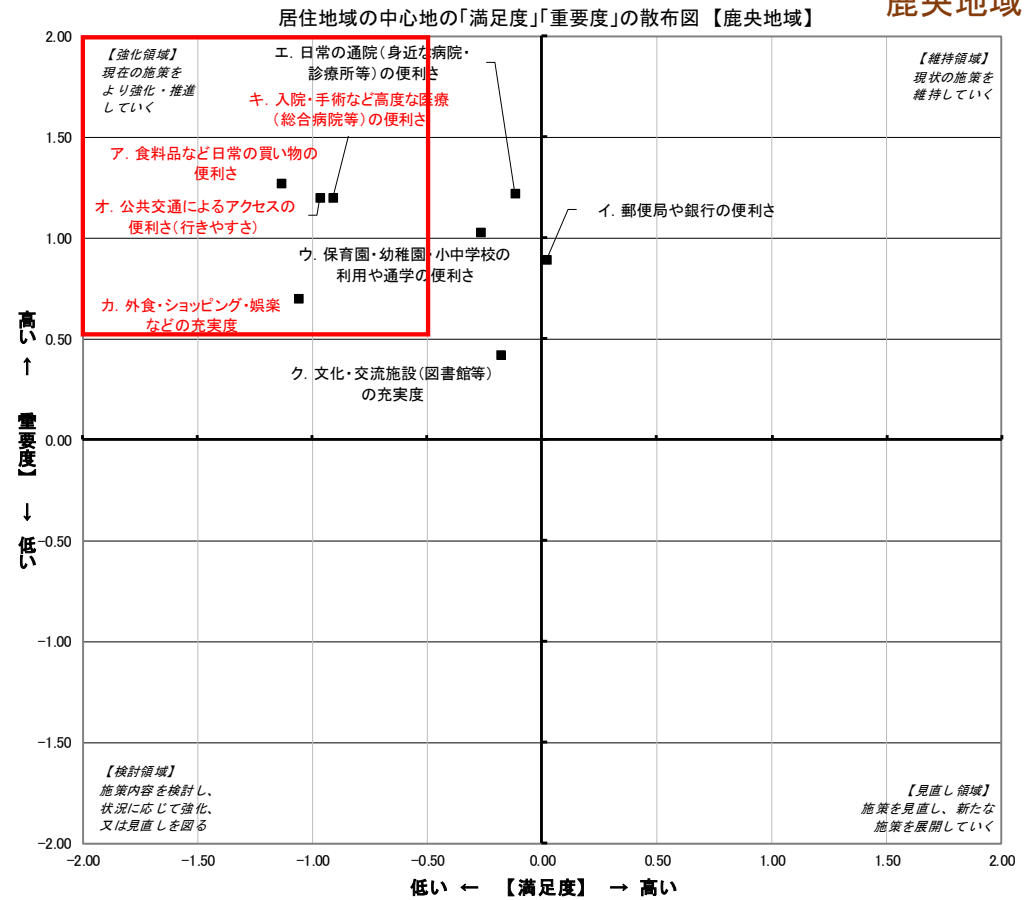
③市民意向

菊鹿地域

鹿央地域



※満足度と重要度の数値は、各設問の「満足・重要」を2点、「やや満足・やや重要」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満・あまり重要でない」を-1点、「不満・重要でない」を-2点として算出した得点の平均である。

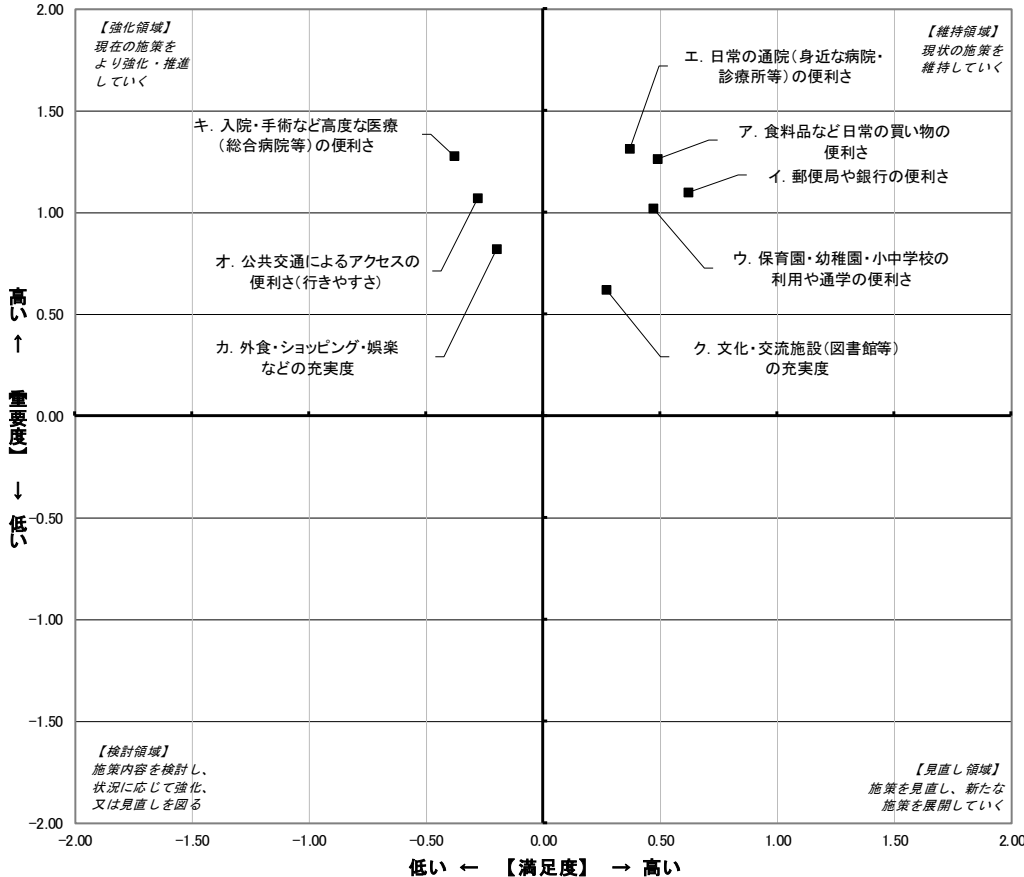


※満足度と重要度の数値は、各設問の「満足・重要」を2点、「やや満足・やや重要」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満・あまり重要でない」を-1点、「不満・重要でない」を-2点として算出した得点の平均である。

③市民意向

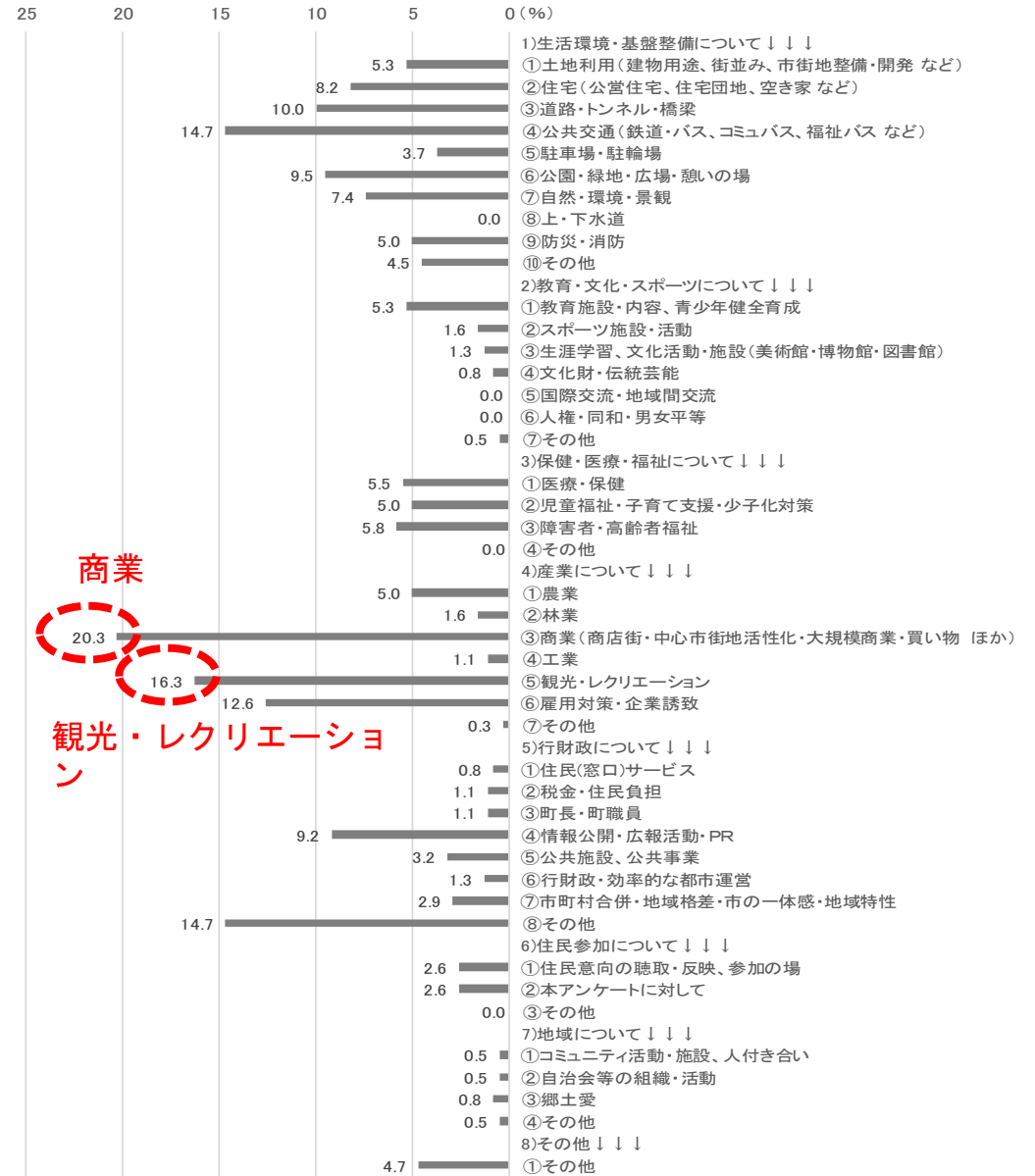
【問21】山鹿市の中心市街地の満足度・重要度では、高度な都市機能への不満が伺えます。
 【問33】自由意見では、「商業」「観光・レクリエーション」への高い意識が伺えます。

山鹿市の中心市街地の「満足度」「重要度」の散布図【市全体】



※満足度と重要度の数値は、各設問の「満足・重要」を2点、「やや満足・やや重要」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満・あまり重要でない」を-1点、「不満・重要でない」を-2点として算出した得点の平均である。

問33 自由意見 分類集計



④現行計画の検証・各課ヒアリング

- 【ヒア】地域づくり（賑わい、活性化）
- 【ヒア】農業を取り巻く厳しい環境（高齢化、担い手減少、耕作放棄地、鳥獣被害、自然災害、価格低迷、資機材等の高騰）
- 【ヒア】賑わいの喪失、厳しい経営環境
- 【ヒア】国内宿泊者の減少、観光事業従事者の減少、インバウンド対応
- 【ヒア】産業用地の不足や人手不足に対応した新たな産業用地の確保
- 【ヒア】農業者の減少や耕作放棄地の拡大
- 【検証】「稼ぐ仕組み」づくり（関係性・体制の構築）
- 【検証】魅力ある観光地域づくり、政策間の連携
- 【検証】空き店舗の活用、賑わい創出、観光連携などの支援
- 【検証】用途地域内での企業用地確保が困難
- 【検証】東部工業団地の拡張は困難。新たな企業用地を探る必要
- 【検証】農地の集積・集約、担い手の確保・育成、耕作放棄地の解消
- 【検証】豊前街道に活気を取り戻し、「選ばれる山鹿」を目指す

【取組実績】

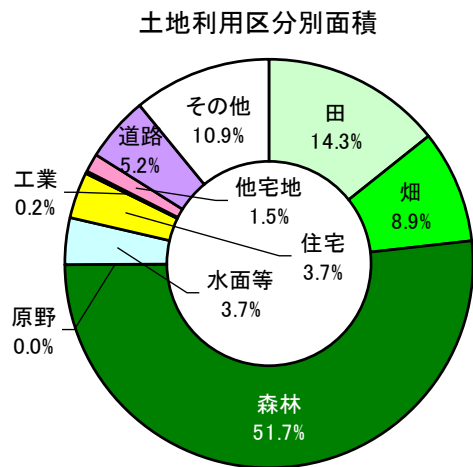
- ≫ 創業・開業支援等空き店舗対策事業
- ≫ 商店街にぎわいづくり支援事業
- ≫ 企業の相談対応・ヒアリング・誘導
- ≫ 農地集積集約化対策事業
- ≫ 山鹿市まちなみ整備事業・豊前街道歴史的まちなみ再生事業 など

【まちづくりの課題】

- ⇒ 緑が有する多面的機能の享受に向け、担い手の確保や農地の集積・集約による生産性の向上など農林業の振興
- ⇒ 工業団地を中心とする産業振興、地域活力の向上に資する企業誘致のための用地確保等の検討
- ⇒ 中心市街地や観光拠点など、地域特性を生かしたにぎわいづくり
- ⇒ 蓄積された都市施設の有効活用と都市機能の集約による都市活力の維持・向上
- ⇒ 多様な地域資源の活用、関係者間の連携深化等による交流・関係人口の規模拡大

①現況等

- ・ 森林の割合が50%超であり、菊池川流域の限られた平地に市街地が形成され、国道3号及び国道325号など幹線道路沿道を中心に拡大してきました。
- ・ 用途地域周辺では、県道畑中山鹿線沿道で都市的土地利用（商業施設）が進みました。
- ・ 都市計画区域が無指定の鹿本地域では、国道325号沿道に市街地が形成されています。

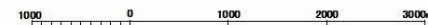
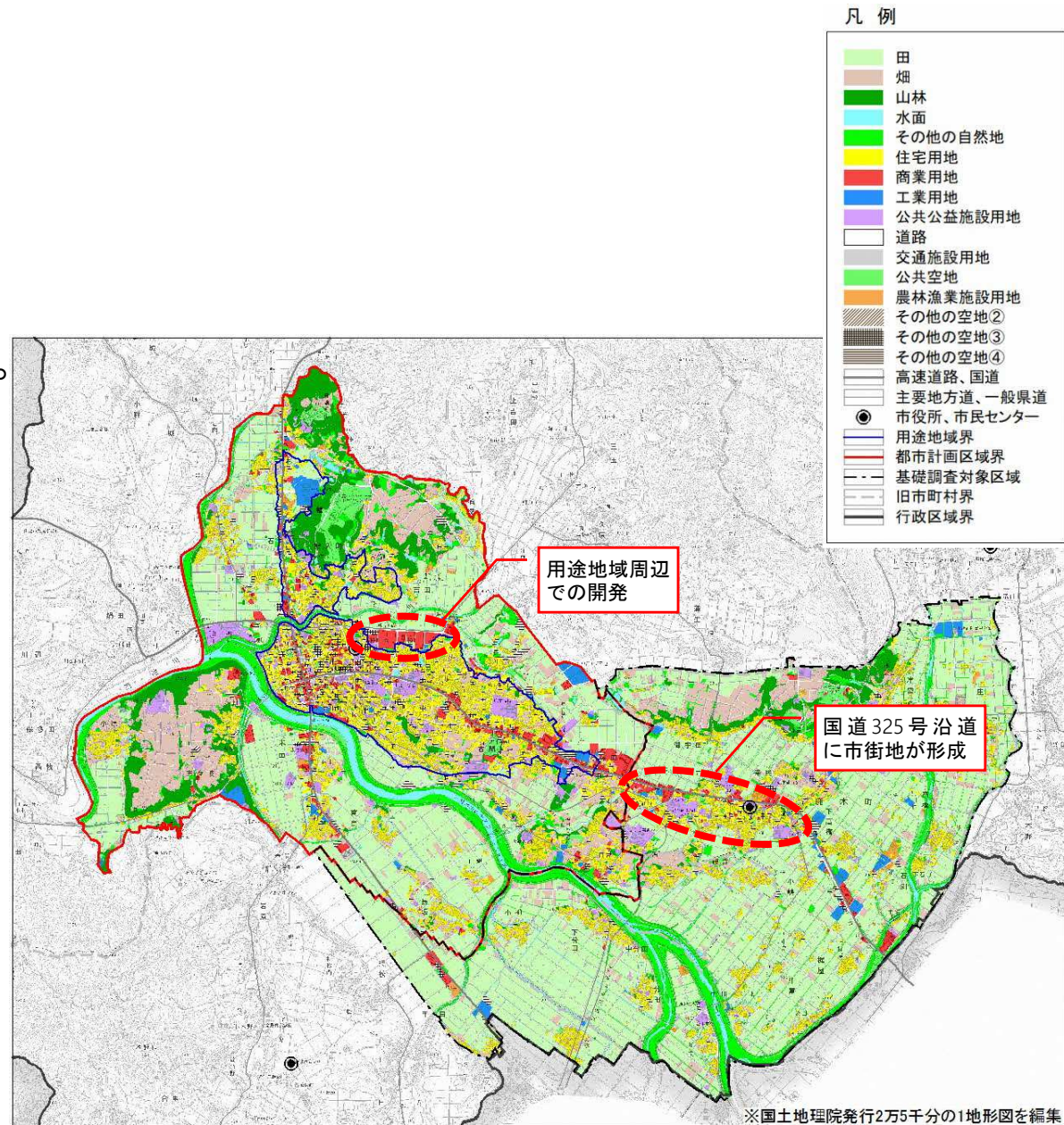


■土地利用区別面積

(単位: ha、%)

	農地		森林	原野	水面等	宅地			道路	その他	合計
	田	畑				住宅	工業	ほか			
山鹿市	4,280	2,680	15,488	2	1,109	1,096	61	437	1,545	3,271	29,969
	14.3	8.9	51.7	0.0	3.7	3.7	0.2	1.5	5.2	10.9	100.0

資料：熊本県統計年報「土地利用現況把握調査」



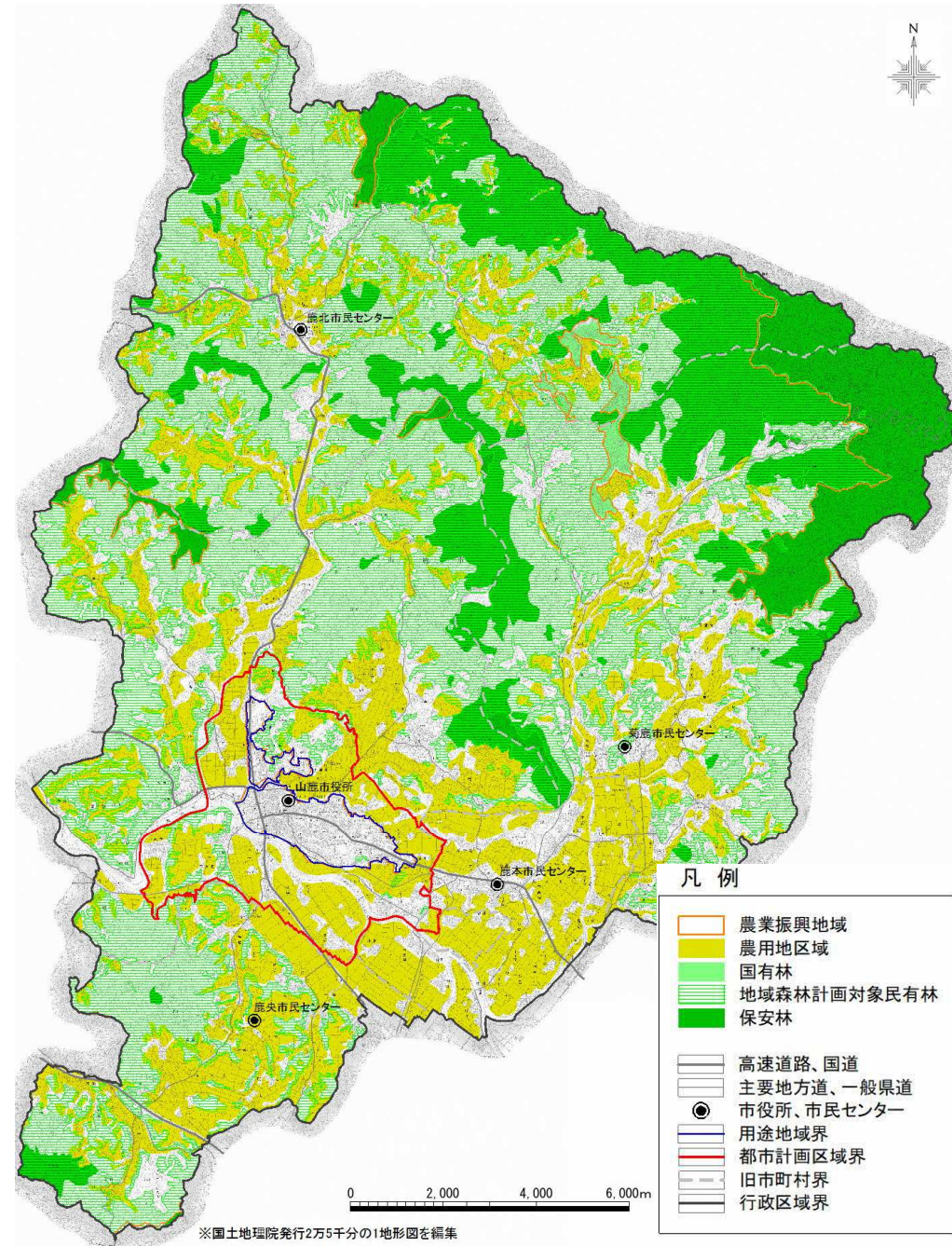
①現況等

- 山鹿地域では2,275ha（市域の7.6%）の都市計画区域が指定され、その他の4地域では都市計画区域が指定されていません。
- 河川流域の平坦地には農用地が5,843.8ha（市域の19.5%）指定されています。
- 山鹿都市計画区域では471ha（市域の1.6%）の用途地域が指定され、道路や公園などの都市施設、土地区画整理事業などが整備されています。

■山鹿市の都市計画

	規模	決定	備考
土地利用			
都市計画区域	2,275 ha	法指定:S11.6.30	行政区域(29,969ha)の一部
地域地区			
用途地域	471 ha	-	1低、1中高、1住、2住、近商、商業、準工、工業
特別用途地区	8.4	最終:H4.2.5	娯楽レクリエーション地区
	41.0 ha	最終:H20.7.1	大規模集客施設制限地区
	1.8	最終:H28.3.1	行政・文化拠点地区
準防火地域	2.5 ha	最終:H23.3.18	
地区計画	8.4 ha	決定:H4.2.5	宗方地区(温泉街と居住環境の調和)
都市施設			
道路	10.52 km	-	幹線街路7路線、特殊街路4路線
交通広場	500 m ²	最終:H14.10.21	8・7・6豊前街道南線
公園	44.37 ha	-	街区9、総合1、運動1、特殊1、墓園1
下水道	715 ha	最終:H27.8.27	供用640ha(整備率89.5%)
汚物処理場	0.5 ha	当初:S54.2.10	処理能力50kl/日
ごみ焼却場	2 ha	当初:H27.8.27	処理能力46t/日
防火水槽	33 m ²	-	2箇所
市街地再開発時用			
土地区画整理事業	49.5 ha	-	1地区(都決)
市街地再開発事業	2.3 ha	最終:S51.6.17	広町地区(店舗・住宅)

資料：熊本県の都市計画(2020)、都市計画現況調査(R3)



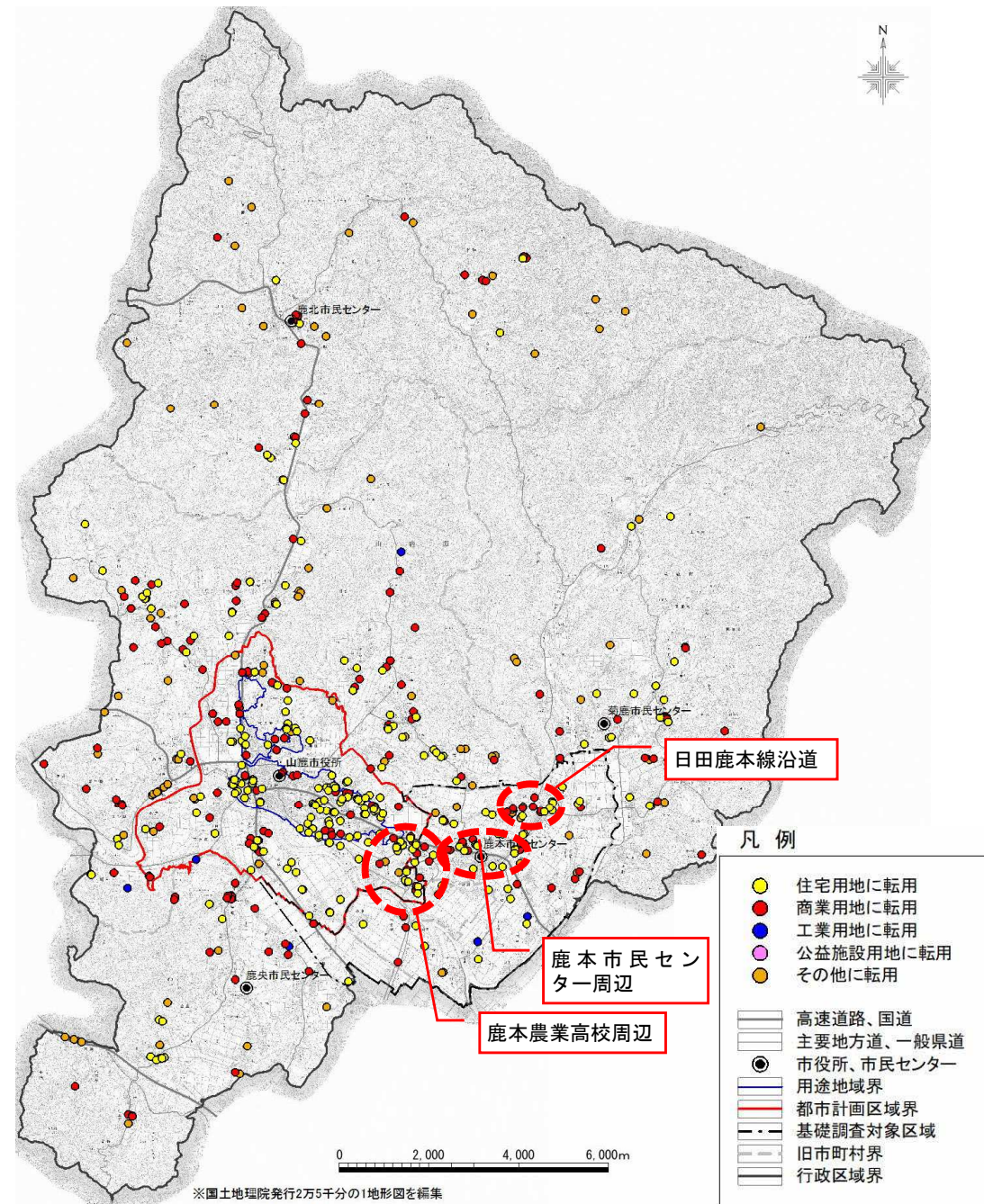
凡例

- 農業振興地域
- 農用地区域
- 国有林
- 地域森林計画対象民有林
- 保安林
- 高速道路、国道
- 主要地方道、一般県道
- 市役所、市民センター
- 用途地域界
- 都市計画区域界
- 旧市町村界
- 行政区境界

※国土地理院発行2万5千分の1地形図を編集

①現況等

- ・農地転用は各年150件前後で推移し、用途地域外では、方保田地区の鹿本農業高校周辺、来民地区の鹿本市民センター周辺、県道日田鹿本線沿道などで若干多めとなっています。
- ・開発許可は平成28～令和2年度の5年間で8件となっています。
- ・新築は各年100件前後で推移し、用途地域外では方保田地区の鹿本農業高校周辺で多めとなっています。



①現況等

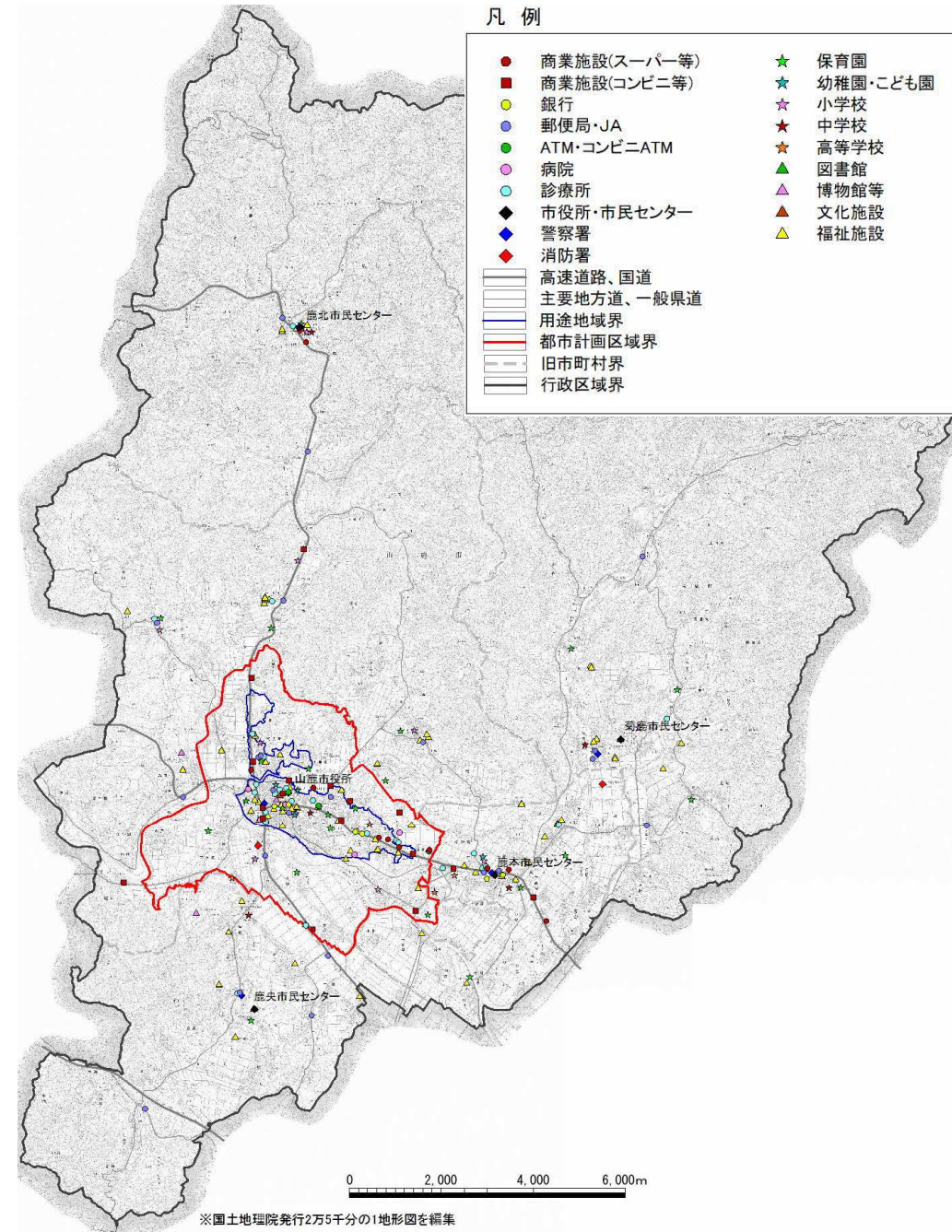
- ・ 国道325号及び県道畑中山鹿線沿道に大規模小売店舗が19件立地しています。
- ・ 生活利便施設は、主に山鹿地域の市役所周辺及び国道325号沿道に集積し、市民センター周辺にも一定程度の施設が立地しています。
- ・ 地価は下落を続けています。
- ・ 中心市街地における空家の有効活用が望まれます。

■空家の状況 (単位:戸)

	不良度ランク					合計
	A	B	C	D	E	
山鹿地域	56	299	202	47	2	606
鹿北地域	5	35	36	19	0	95
菊鹿地域	6	34	56	12	0	108
鹿本地域	6	47	47	15	0	115
鹿央地域	2	50	27	9	0	88
山鹿市	75	465	368	102	2	1012

※不良度ランク 資料: 山鹿市空家等対策計画(H30)

- A: ほぼ現状のまま利用することが可能である。
- B: 比較的軽微な修理等で利用することが可能である。
- C: 現状のままでは利用が困難である。
- D: 現状での利用は不可能である。
- E: 空家であることは間違いないが、判定が難しい。



②上位関連計画・社会経済情勢

【総先導】

安全で安心な住まいづくり事業、公営住宅維持管理費、特定空家等除却促進事業

【総基幹】

都市計画区域等の見直し、市営住宅の改修・整備

【区域：案】

人口減少、少子高齢化への対応、恵まれた自然環境の維持・保全、活力有る都市づくり

【社経】

価値観の多様性・ニューノーマルの時代

【総先導】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・先導施策

【総基幹】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・基幹施策

【戦略】：(R2.3) まち・ひと・しごと創生 第2期山鹿市総合戦略

【区域】：(R4改定：案) 山鹿都市計画区域マスタープラン（熊本県）

【社経】：社会経済情勢

③市民意向

【問18】人口減少・高齢化の進展による問題では、将来的な居住環境に不安を感じています。

【問19】目指すべき都市構造では、コンパクトシティへ一定の理解が得られているものの、丁寧な説明でより理解を深めることが重要です。

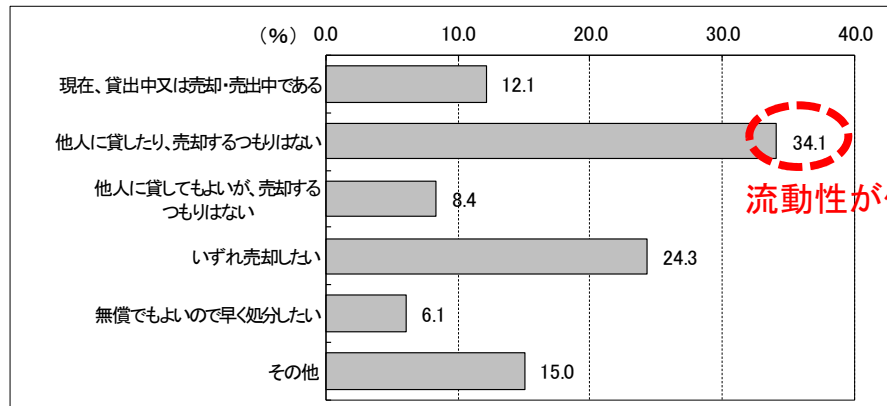
【問22】住居系の土地利用では、市民の理解や同意を得ながら、住居系の土地利用を計画的に進めていくことが重要です。

【問23】居住していない住宅では、空家等の即時的な流動性は低く、有効活用に向けた施策の展開が重要です。

問23_市内で居住していない住宅の今後について

SA

	【回答総数	214 人
① 現在、貸出中又は売却・売出中である	26 件 (12.1 %)	
② 他人に貸したり、売却するつもりはない	73 件 (34.1 %)	
③ 他人に貸してもよいが、売却するつもりはない	18 件 (8.4 %)	
④ いずれ売却したい	52 件 (24.3 %)	
⑤ 無償でもよいので早く処分したい	13 件 (6.1 %)	
⑥ その他	32 件 (15.0 %)	

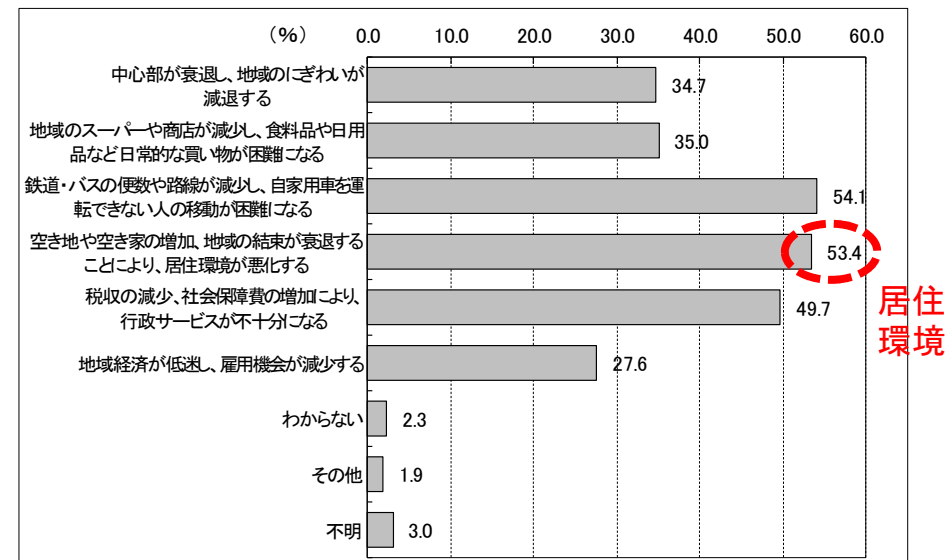


問18_人口減少・高齢化の進展による問題

3LA

【回答総数 1016 人】

① 中心部が衰退し、地域のにぎわいが減退する 利用者の減少により、地域のスーパーや商店が減少し(無くなり)、食料品や日用品など日常的な買い物が困難になる	353 件 (34.7 %)
② 鉄道・バス利用者の減少により、便数や路線が減少し(無くなり)、子どもや高齢者など自家用車を運転できない人の移動が困難になる	356 件 (35.0 %)
③ 空き地や空き家の増加、地域の結束(コミュニティ)が衰退することにより、居住環境が悪化する	550 件 (54.1 %)
④ 税収の減少、社会保障費の増加により、行政サービス(道路等のインフラや福祉・介護、公共施設の管理等)が不十分になる	543 件 (53.4 %)
⑤ 地域経済が低迷し、雇用機会が減少する	505 件 (49.7 %)
⑥ わからない	280 件 (27.6 %)
⑦ その他	23 件 (2.3 %)
⑧ その他	19 件 (1.9 %)
不明	30 件 (3.0 %)



③市民意向

【問24】商業系の土地利用では、商業施設の立地が求められています。

【問25】工業系の土地利用では、企業誘致を含めた工業用地の整備が求められています。

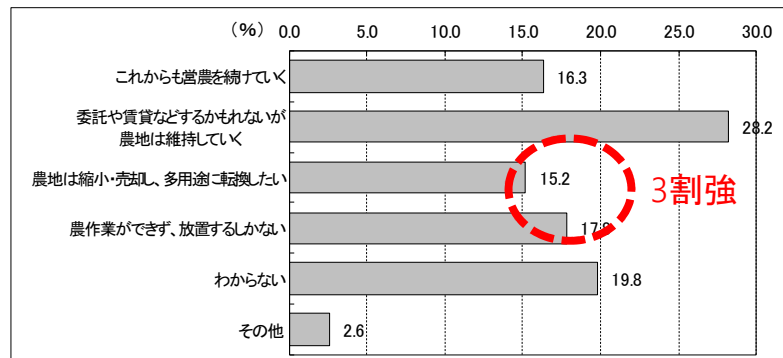
【問26】農地では、3割強が農業を続けない（続けられない）としています。

【問31】土地利用のルールでは、計画的な土地利用の必要性が理解されているものの、丁寧な説明でより理解を深めることが重要です。

問26_市内に所有する農地の今後について

SA

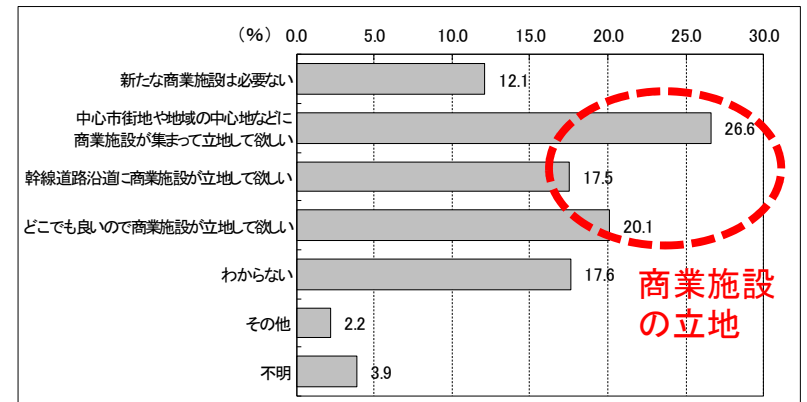
回答内容	件数	割合 (%)
① これからも営農を続けていく	74件	16.3%
② 委託や賃貸などするかもしれないが農地は維持していく	128件	28.2%
③ 農地は縮小・売却し、多用途に転換したい	69件	15.2%
④ 農作業ができず、放置するしかない	81件	17.8%
⑤ わからない	90件	19.8%
⑥ その他	12件	2.6%



問24_商業系の土地利用について

SA

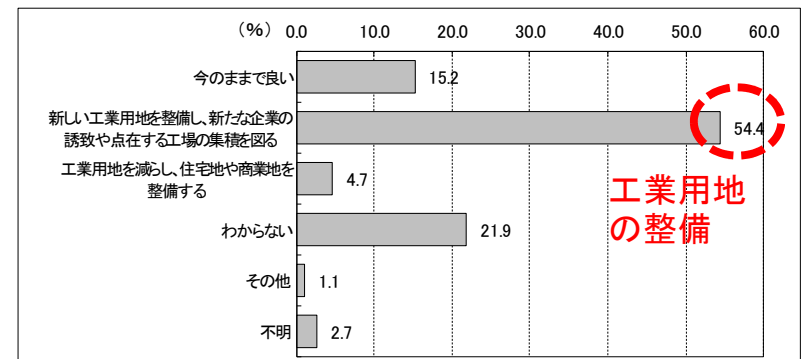
回答内容	件数	割合 (%)
① 新たな商業施設は必要ない	123件	12.1%
② 中心市街地や地域の中心地などに商業施設が集まって立地して欲しい	270件	26.6%
③ 幹線道路沿道に商業施設が立地して欲しい	178件	17.5%
④ どこでも良いので商業施設が立地して欲しい	204件	20.1%
⑤ わからない	179件	17.6%
⑥ その他	22件	2.2%
不明	40件	3.9%



問25_工業系の土地利用について

SA

回答内容	件数	割合 (%)
① 今のままで良い	154件	15.2%
② 新しい工業用地を整備し、新たな企業の誘致や点在する工場の集積を図る	553件	54.4%
③ 工業用地を減らし、住宅地や商業地を整備する	48件	4.7%
④ わからない	223件	21.9%
⑤ その他	11件	1.1%
不明	27件	2.7%



④現行計画の検証・各課ヒアリング

【ヒア】市保有の遊休財産の有効活用

【検証】豊前街道沿線の家屋老朽化や空家空地等

【検証】市街地周辺での急激な開発圧力はみられない

【検証】農地の保全、適切な管理、農地法の適切な運用

【検証】所得税等特例措置による低未利用地の有効活用

【検証】国道325号北側の優良農地の維持、南側の宅地等転用など、地域特性に応じた土地利用（農地転用）

【検証】国道325号の整備進捗を踏まえつつ、都市計画区域及び用途地域の再編要否を注視

【検証】商業や住宅などの開発が進む県道畑中山鹿線や市道中御宇田線沿道の用途地域は無指定

【検証】市道十三部御宇田線と国道325号の狭間地よりも、御宇田集落で宅地化が進む可能性

【検証】農用地における虫食いの抑制

【検証】立地適正化計画の策定検討

【取組実績】

- ≫地域活性化・移住促進等の実現に向けた「低未利用土地等の譲渡に係る所得税及び個人住民税の特例措置」
- ≫土地利用、市街化動向の見定め
- ≫農地法の適切な運用
- ≫森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業など

【まちづくりの課題】

⇒持続可能な都市経営を目指し、誘導も含めた計画的な土地利用の推進

⇒今後の開発動向に応じた都市計画区域や用途地域の再編検討

⇒中心拠点や地域生活拠点、集落拠点など、地域の役割に応じた土地利用（施設配置等）の推進

⇒空家や空き地など、土地の適切な管理と有効利用

⇒農地や森林の保全と活用、制度の周知と運用

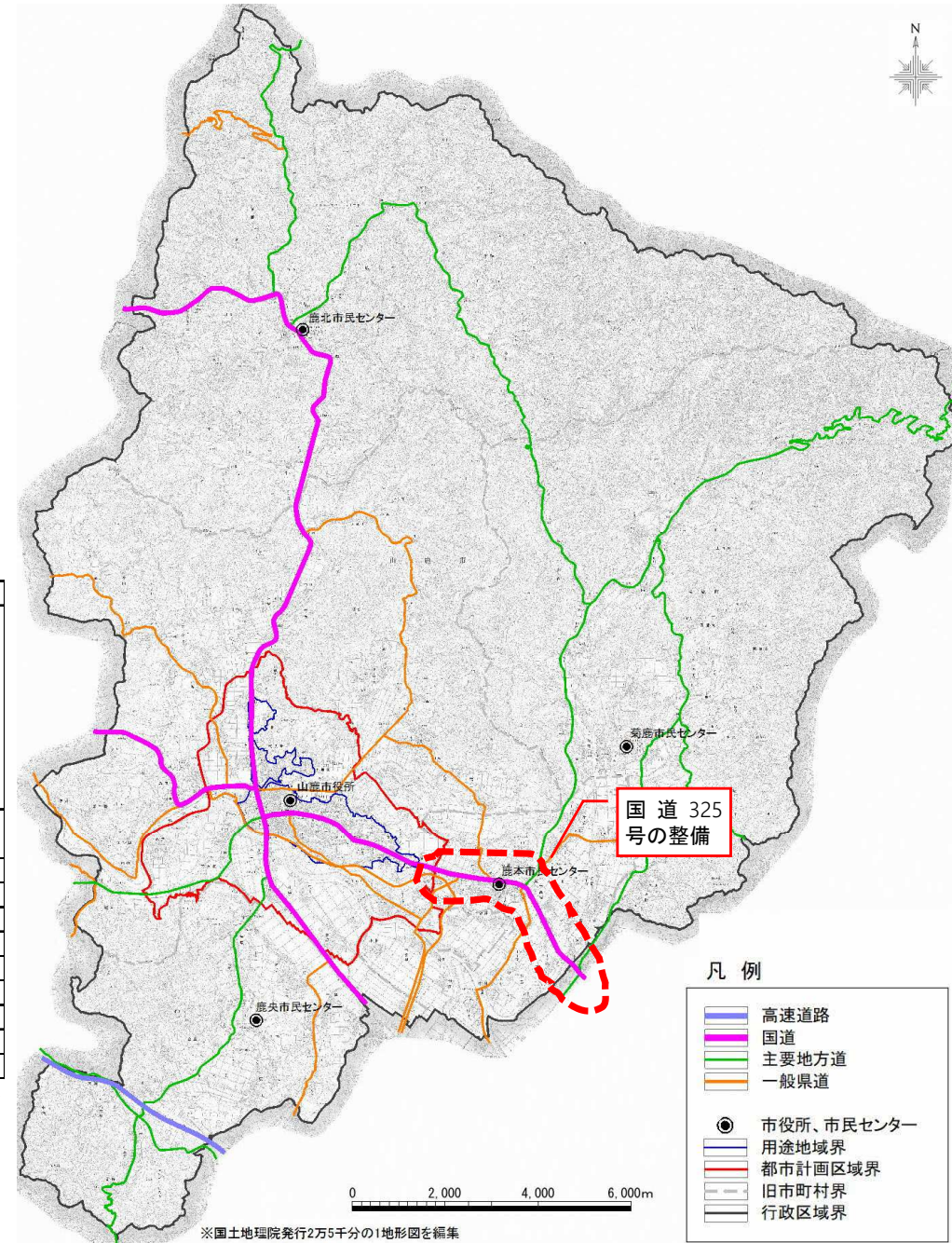
⇒優れた自然地の保全と活用

①現況等

- ・国道3号及び国道325号、国道443号を骨格として、山鹿地域を中心に放射状に幹線道路網が形成されています。
- ・国道3号及び国道325号の平日24時間交通量は16,000台であり、慢性的に渋滞が発生している国道325号では整備が進められています。

道 路 種 別		道 線 番 号	路 線 名	単 位 交 通 量 調 査 区 間 番 号	交 通 量 観 測 地 点 地 名 市 区 丁 目 郡 町 村	交 通 量 観 測 別	平 成 27 年		平 成 22 年		H27/H22
						非 交 通 量 観 測	自 動 車 類 交 通 量 昼 間 1 2 時 間 (台)	自 動 車 類 交 通 量 2 4 時 間 (台)	自 動 車 類 交 通 量 昼 間 1 2 時 間 (台)	自 動 車 類 交 通 量 2 4 時 間 (台)	類 2 4 時 間 交 通 量 増 減 率 自 動 車 (%)
1	1030	九州縦貫自動車道鹿児島線宮崎線	30	菊水IC～植木IC	1		27,021	36,472	27,567	36,592	0.00
3	3	一般国道3号	10010	山鹿市鹿北町岩野	1		5,669	8,503	6,179	9,375	-0.09
3	3	一般国道3号	10020	山鹿市南島	1		10,808	16,212	14,588	20,277	-0.20
3	325	一般国道325号	11310	山鹿市山鹿	1		13,378	16,990	15,630	19,538	-0.13
3	443	一般国道443号	11690	山鹿市鍋田	1		5,127	6,460	8,379	10,222	-0.37
4	3	大牟田植木線	40080	山鹿市鹿央町梅木谷	1		3,035	3,733	3,683	4,493	-0.17
4	13	黒木鹿北線	40290	山鹿市鹿北町岩野	1		841	1,034	832	1,015	0.02
4	16	玉山山鹿線	40400	山鹿市志々岐	1		7,261	9,076	7,805	10,068	-0.10
4	55	山鹿植木線	41610	山鹿市南島	1		2,749	3,354	2,152	2,690	0.25
6	119	植木山鹿線	60290	山鹿市鹿央町千田	1		2,275	2,776	2,023	2,529	0.10

資料：平成27年度 道路交通センサス



①現況等

- ・都市計画道路は11路線10,520mであり、整備率は100%となっています。
- ・道路幅員の4m未満比率は、用途地域32.8%、用途白地地域67.1%、鹿本地域等25.0%となっています。
- ・公共交通による近隣市町との繋がりは弱いと考えられます。

■都市計画道路の整備状況

(単位:km、%)

都市名	計画			改良済			概成済			整備率 (②+③)/①
	合計 ①	幹線 街路	その他 道路	合計 ②	幹線 街路	その他 道路	合計 ③	幹線 街路	その他 道路	
山鹿市	10.52	9.33	1.19	10.30	9.33	0.97	0.22	0.00	0.22	100.00
熊本県	325.71	298.75	26.96	239.27	219.27	20.00	1.41	1.41	0.00	73.90

※計画:都市計画決定された道路延長

資料:R3都市計画現況調査

※改良済:道路用地が計画幅員どおり確保されており、一般の通行用に供している道路延長

※概成済:改良済以外の区間のうち、路線として都市計画道路と同程度の機能を果たしている現道(おおむね計画幅員の2/3以上又は、4車線以上の幅員を有する道路)を有する区間とその現道に対応する都市計画道路延長

※整備率=(改良済+概成済)/(計画)

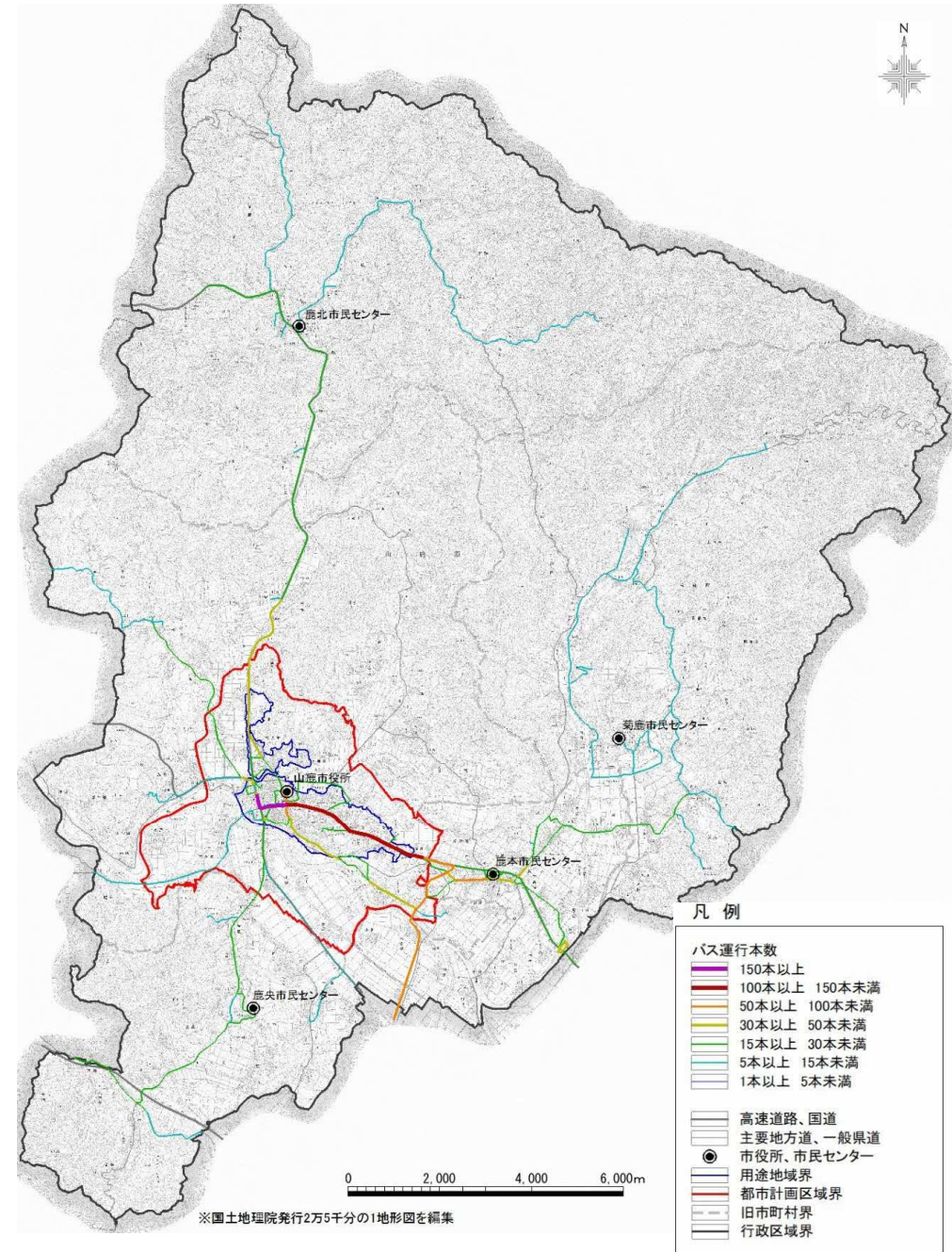
■道路幅員

(単位:m、%)

区域	15m以上	6~15m	4~6m	4m未満	4m未満比率
用途地域	3,977.6	23,308.4	35,342.6	20,562.4	32.8
用途白地地域	4,771.0	41,428.8	73,827.6	80,564.1	67.1
都市計画区域	8,748.6	64,737.2	109,170.2	101,126.5	55.4
その他区域	6,817.7	44,070.6	163,822.0	53,746.8	25.0
調査区域合計	24,315.0	173,545.0	382,162.4	255,999.8	44.1

※その他区域:鹿本地域の全部、鹿央地域の一部

資料:R3都市計画基礎調査



②上位関連計画・社会経済情勢

【総先導】

地方道路等整備事業、道路維持費、地域公共交通事業

【総基幹】

地域公共交通の維持、道路橋梁等の整備、道路橋梁等の長寿命化

【区域：案】

広域的な交流・連携の活性化

【社経】

高度情報技術の発展・普及

【総先導】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・先導施策

【総基幹】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・基幹施策

【戦略】：(R2.3) まち・ひと・しごと創生 第2期山鹿市総合戦略

【区域】：(R4改定：案) 山鹿都市計画区域マスタープラン（熊本県）

【社経】：社会経済情勢

③市民意向

【問8】 日常利用する交通手段では、車社会が根付いています。

【問9】 居住地域の満足度・重要度では、公共交通の利便性向上が求められています。

【問12】 転居理由では、全体として、公共交通への不満が伺えます。また、若年層では通勤・通学への不満が伺えます。

【問13】 公共交通機関では、公共交通への不満が伺えます。

【問14】 公共交通機関が不便な理由では、サービス水準への不満が伺えます。

【問15】 移動距離の程度では、バス停まで短い移動距離が求められています。

問14_公共交通機関が不便な理由(問13で「2」と回答)

2LA

【回答総数 700人】

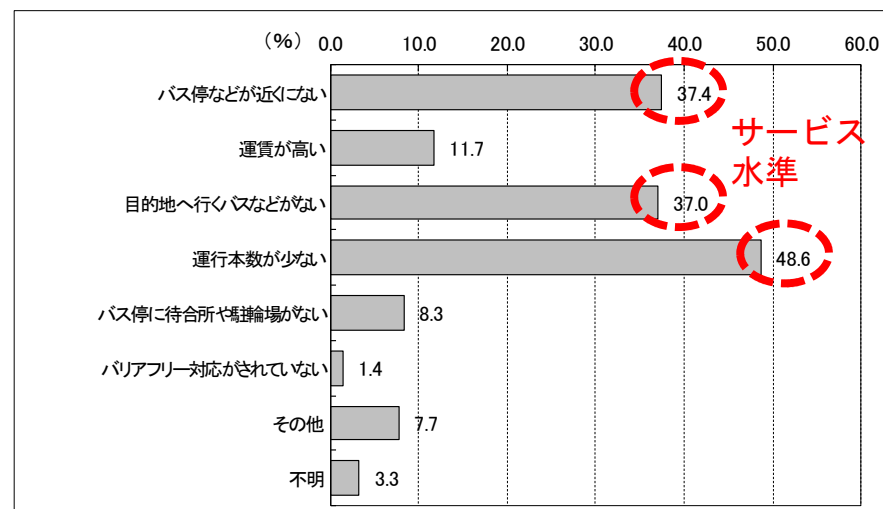
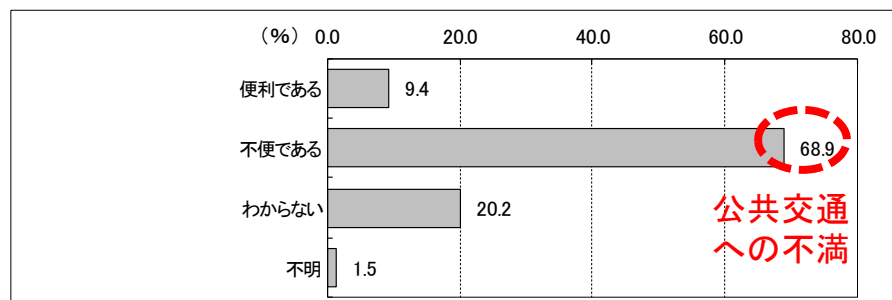
① バス停などが近くにない	262件 (37.4 %)
② 運賃が高い	82件 (11.7 %)
③ 目的地へ行くバスなどがいない	259件 (37.0 %)
④ 運行本数が少ない	340件 (48.6 %)
⑤ バス停に待合所や駐輪場がない	58件 (8.3 %)
⑥ バリアフリー対応がされていない	10件 (1.4 %)
⑦ その他	54件 (7.7 %)
不明	23件 (3.3 %)

問13_公共交通機関について

SA

【回答総数 1016人】

① 便利である	96件 (9.4 %)
② 不便である	700件 (68.9 %)
③ わからない	205件 (20.2 %)
不明	15件 (1.5 %)



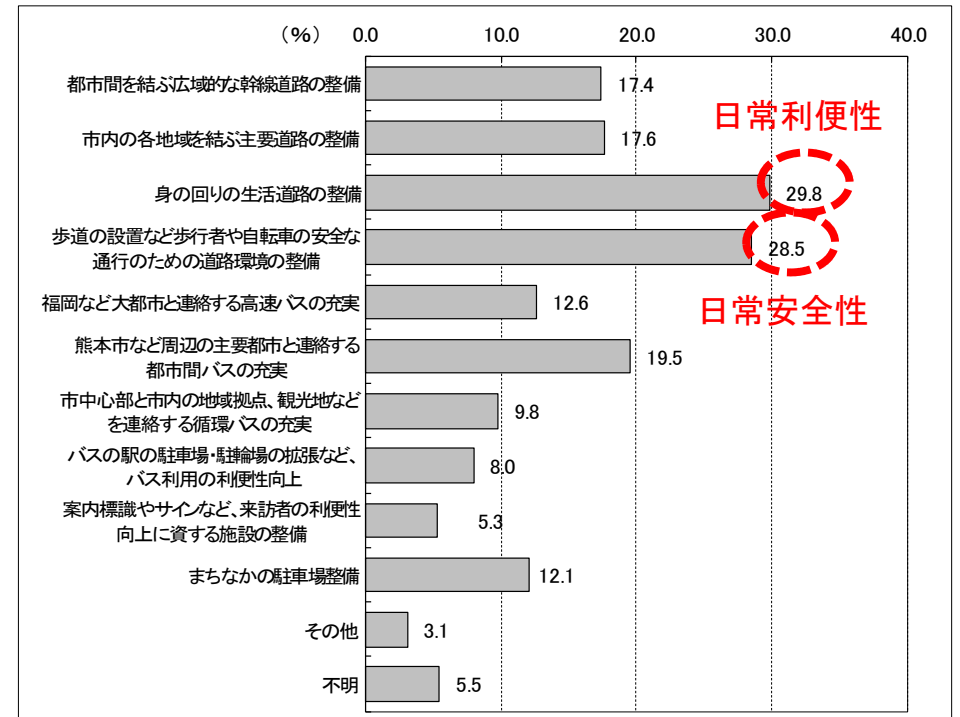
③市民意向

- 【問18】人口減少・高齢化の進展による問題では、将来的な移動に不安を感じています。
- 【問21】山鹿市の中心市街地の満足度・重要度では、交通利便性への不満が伺えます。
- 【問27】道路整備や交通のあり方では、日常的な道路の利便性や安全性への高い意識が伺えます。
- 【問30】今後の観光施策では、観光客の利便性向上も求められています。
- 【問33】自由意見では、「公共交通」への高い意識が伺えます。

問27_道路整備や交通のあり方について

2LA

	【回答総数	1016 人
① 都市間を結ぶ広域的な幹線道路の整備	177 件 (17.4 %)
② 市内の各地域を結ぶ主要道路の整備	179 件 (17.6 %)
③ 身の回りの生活道路の整備	303 件 (29.8 %)
④ 歩道の設置など歩行者や自転車の安全な通行のための道路環境の整備	290 件 (28.5 %)
⑤ 福岡など大都市と連絡する高速バスの充実	128 件 (12.6 %)
⑥ 熊本市など周辺の主要都市と連絡する都市間バスの充実	198 件 (19.5 %)
⑦ 市中心部と市内の地域拠点、観光地などを連絡する循環バスの充実	100 件 (9.8 %)
⑧ バスの駅の駐車場・駐輪場の拡張など、バス利用の利便性向上	81 件 (8.0 %)
⑨ 案内標識やサインなど、来訪者の利便性向上に資する施設の整備	54 件 (5.3 %)
⑩ まちなかの駐車場整備	123 件 (12.1 %)
⑪ その他	32 件 (3.1 %)
不明	56 件 (5.5 %)



④現行計画の検証・各課ヒアリング

- 【ヒア】 持続可能な地域公共交通網の形成
- 【ヒア】 交通需要の減少に対応した整備、老朽化対策
- 【検証】 老朽化した道路や街路灯など道路設備の維持管理
- 【検証】 市道中御宇田線など重要路線における未改良区間の整備
- 【検証】 国道325号の4車線化や電線地中化の計画的な事業進捗
- 【検証】 狭あい道路の改善
- 【検証】 中心市街地では、歩行空間のための道路用地の確保が困難
- 【検証】 豊前街道等における歴史的風致に配慮した整備
- 【検証】 既設サインの劣化等に伴う景観に配慮した整備
- 【検証】 都市間の移動や観光拠点の公共交通の確保・維持、二次アクセスの充実、公共交通空白地における移動手段の確保
- 【検証】 観光客が多い道路など、ユニバーサルデザインに配慮した道路の整備
- 【検証】 地域の担い手が減少する中での維持管理手法の検討

【取組実績】

- ≫ 単県道路改良事業（国道325号の4車線化等）
- ≫ 地方道路整備事業（中御宇田線ほか）
- ≫ 歴史的地区環境整備街路事業
- ≫ サイン整備事業
- ≫ あいのりタクシー

など

【まちづくりの課題】

⇒生活利便、地域活力、安全確保など多様な観点による
必要性の高い道路整備の推進

⇒既存道路の維持管理、安全性確保等

⇒地域連携や広域連携、観光交流に資する公共交通機関
の充実（路線の維持・確保、利便性の向上）

⇒技術革新等を踏まえた地域連携や交通利便性の確保

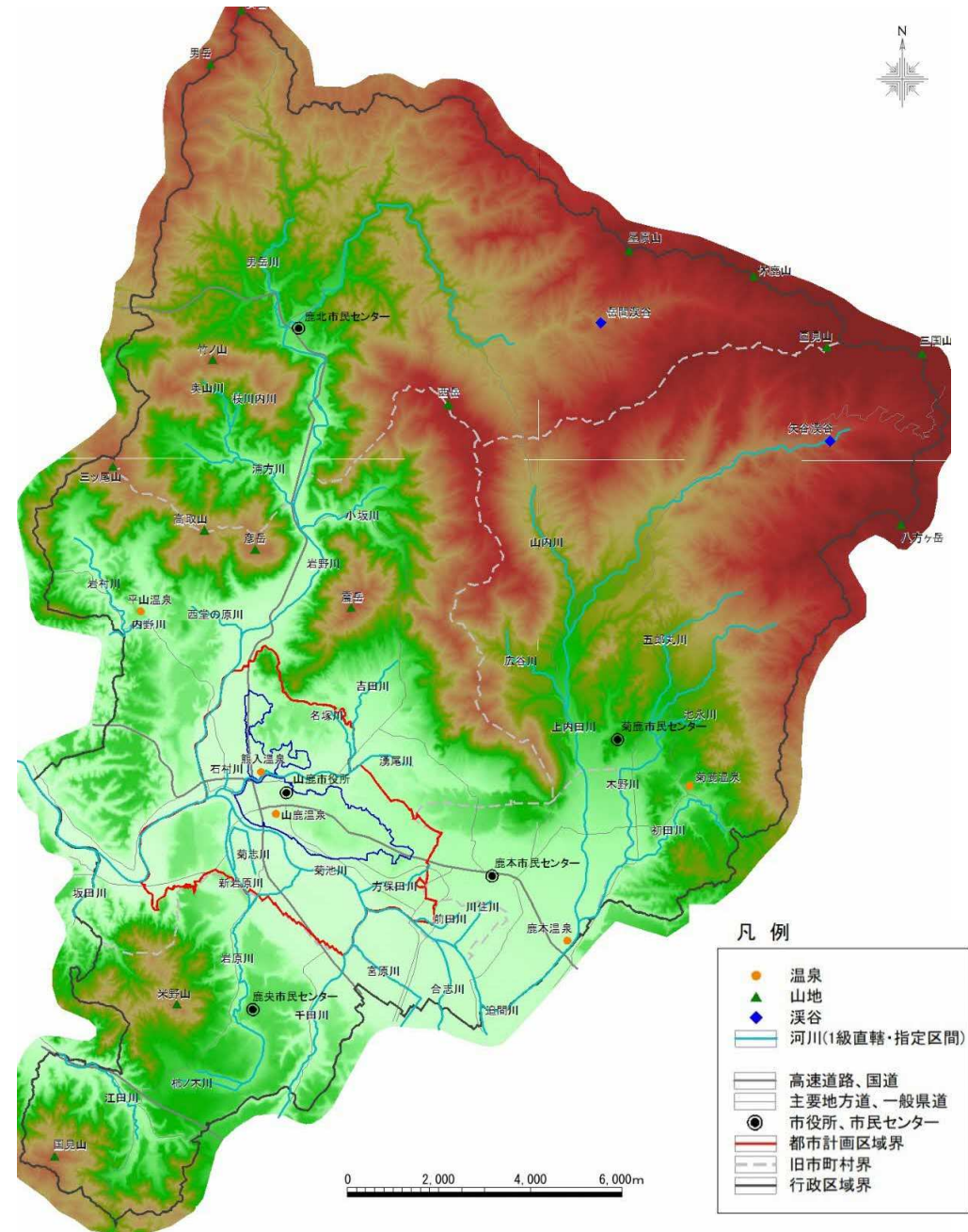
①現況等

- ・都市計画決定された公園等は13箇所44.3haであり、供用率は92.3%となっています。
- ・国見山、八方ヶ岳等の山地、菊池川、岩野川、上内田川等の河川、岳間溪谷、矢谷溪谷など自然豊かな地域を有し、観光・交流・ふれあいの場が各地域に分布しています。
- ・温泉地が各地域に分布しています。
- ・山鹿灯籠をはじめとする伝統工芸や各種文化資源、山鹿灯籠まつり、鹿北茶山唄など、特色ある歴史・文化が多数あります。

■都市計画決定公園等の整備状況 (単位:箇所、ha、%)

都市名	計画		供用		供用率
	箇所数	面積	箇所数	面積	
山鹿市	13	44.3	11	40.9	92.3
熊本県	435	1,091.2	428	1,008.2	92.4

資料:R3都市計画現況調査



②上位関連計画・社会経済情勢

【総先導】

まちなみ再生事業、都市公園施設長寿命化事業

【総基幹】

農業農村の多面的機能の維持、街なみ環境整備の推進、八千代座の保存活用の推進

【区域：案】

恵まれた自然環境の維持・保全、地球温暖化をはじめとする環境問題への対応、広域的な交流・連携の活性化、景観・歴史的資源の保全活用

【社経】

環境問題等への意識の高まり

【総先導】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・先導施策

【総基幹】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・基幹施策

【戦略】：(R2.3) まち・ひと・しごと創生 第2期山鹿市総合戦略

【区域】：(R4改定：案) 山鹿都市計画区域マスタープラン（熊本県）

【社経】：社会経済情勢

③市民意向

【問9】居住地域の満足度・重要度では、地域特性として、鹿北地域では「公園やスポーツ施設の充実度」に関する施策の強化・推進が求められています。

【問28】公園・緑地等の整備では、「防災」「レクリエーション」機能への高い意識が伺えます。

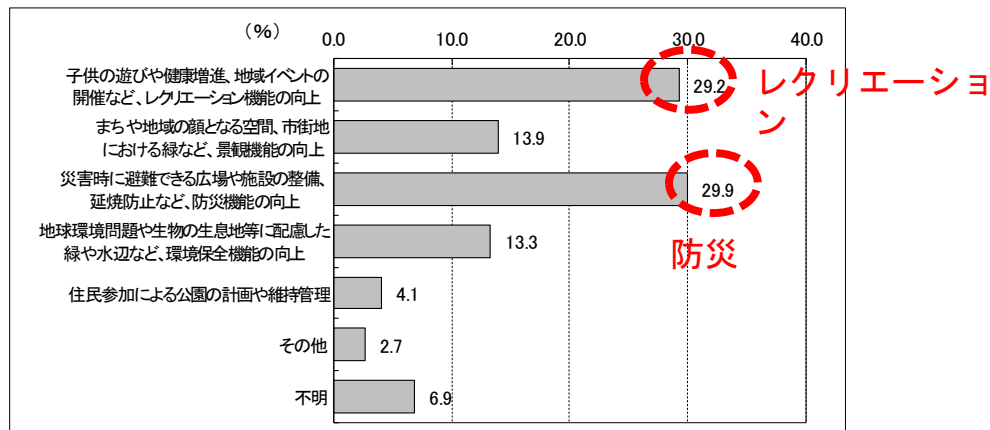
【問30】今後の観光施策では、新たな観光資源の開発に加え、観光客の利便性向上も求められています。

問28_公園・緑地等の整備について

SA

【回答総数 1016 人】

① 子供の遊びや健康増進、地域イベントの開催など、レクリエーション機能の向上	297 件 (29.2 %)
② まちや地域の顔となる空間、市街地における緑など、景観機能の向上	141 件 (13.9 %)
③ 災害時に避難できる広場や施設の整備、延焼防止など、防災機能の向上	304 件 (29.9 %)
④ 地球環境問題や生物の生息地等に配慮した緑や水辺など、環境保全機能の向上	135 件 (13.3 %)
⑤ 住民参加による公園の計画や維持管理	42 件 (4.1 %)
⑥ その他	27 件 (2.7 %)
不明	70 件 (6.9 %)

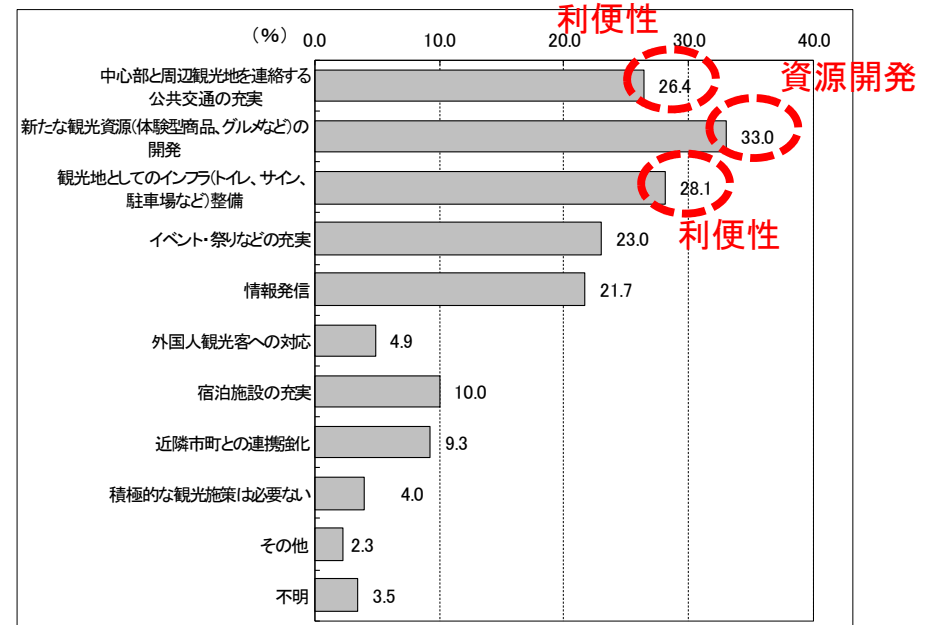


問30_今後の観光施策について

2LA

【回答総数 1016 人】

① 中心部と周辺観光地を連絡する公共交通の充実	268 件 (26.4 %)
② 新たな観光資源(体験型商品、グルメなど)の開発	335 件 (33.0 %)
③ 観光地としてのインフラ(トイレ、サイン、駐車場など)整備	285 件 (28.1 %)
④ イベント・祭りなどの充実	234 件 (23.0 %)
⑤ 情報発信	220 件 (21.7 %)
⑥ 外国人観光客への対応	50 件 (4.9 %)
⑦ 宿泊施設の充実	102 件 (10.0 %)
⑧ 近隣市町との連携強化	94 件 (9.3 %)
⑨ 積極的な観光施策は必要ない	41 件 (4.0 %)
⑩ その他	23 件 (2.3 %)
不明	36 件 (3.5 %)



④現行計画の検証・各課ヒアリング

- 【ヒア】カルチャースポーツセンターを中心とした交流の場の提供
- 【ヒア】価値観の多様化に応じた幅広いスポーツ競技への対応、ニーズ対応のスピード性
- 【検証】豊前街道沿道の歴史的まちなみ整備の推進
- 【検証】豊前街道周辺の小路整備が観光回遊性や賑わいに寄与
- 【検証】豊前街道や国道沿道では、概ね基準に沿った景観が形成。ただし、努力義務のため一部で基準を満たさない届出あり
- 【検証】八千代座の保存・活用、さくら湯のシンボル性を中心市街地活性化に展開
- 【検証】キャンプ場や灯籠民芸館など自然等体験の場の維持・活用
- 【検証】鞠智城跡、肥後古代の森、方保田東原遺跡、菊鹿ワイナリーなどの維持・活用、情報発信、観光周遊性
- 【検証】里山林の保全管理や有効利用
- 【検証】森林の適正管理、耕作放棄地などへの柵檀（センダン）の植林普及
- 【検証】水辺プラザかもと、一本松農村公園、道の駅小栗郷、特産工芸村における指定管理者の継続、将来的な民営化の検討
- 【検証】水と緑のネットワークの形成
- 【検証】住民と一体となった良好な河川環境の形成
- 【検証】米米惣門ツアーや菊池川流域日本遺産などによる川を生かした地域活性化
- 【検証】カルチャースポーツセンターの機能増設の可能性検討
- 【検証】既成市街地における新たな公園の配置検討
- 【検証】番所地区の美しい棚田の景観保全
- 【検証】景観まちづくり団体の認定に向けた周知
- 【検証】地域の担い手が減少する中での維持管理手法の検討

【取組実績】

- ≫カルチャースポーツセンター第2次整備計画
- ≫豊前街道歴史的まちなみ再生事業
- ≫八千代座保存整備事業
- ≫国営鞠智城歴史公園設置促進期成会事業

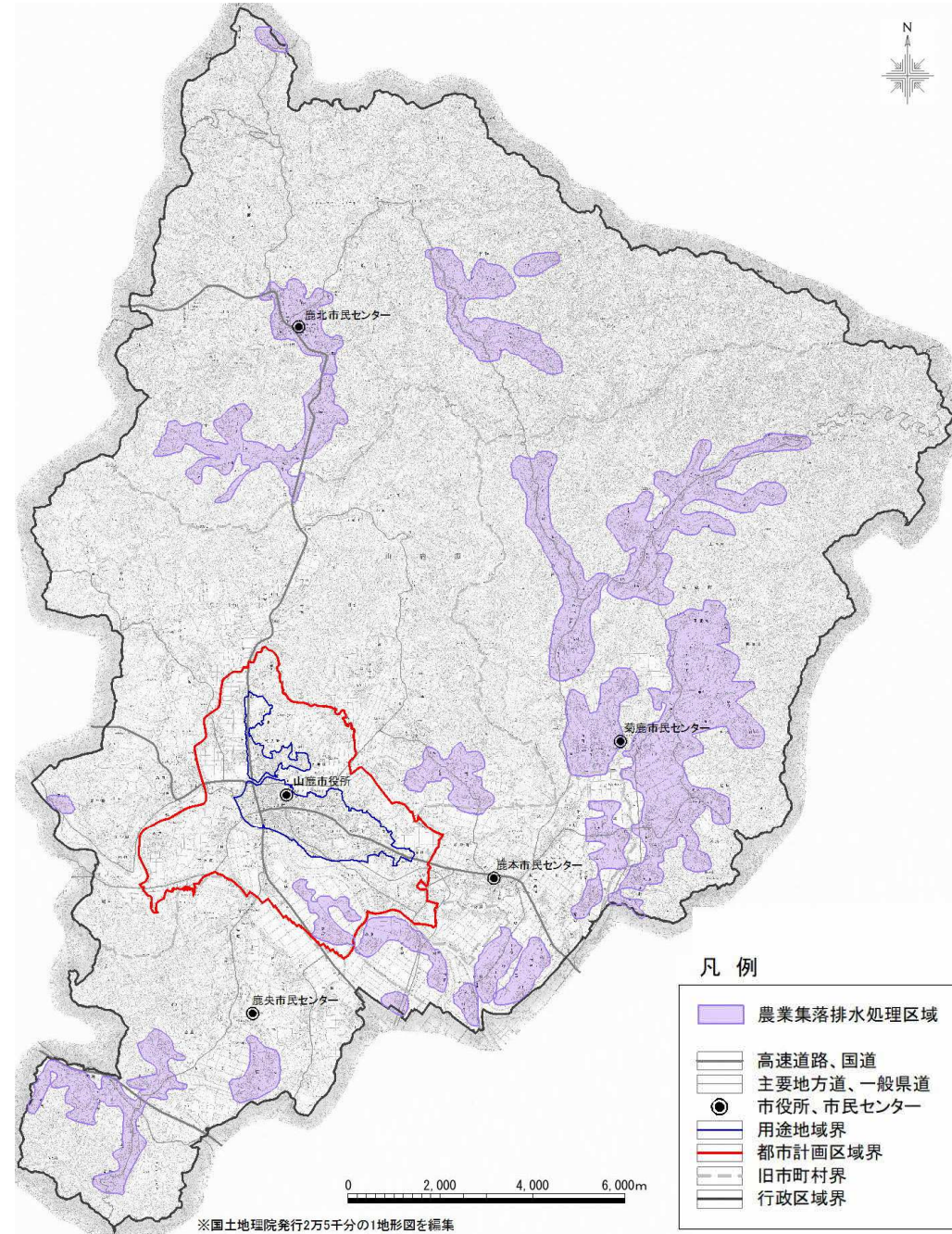
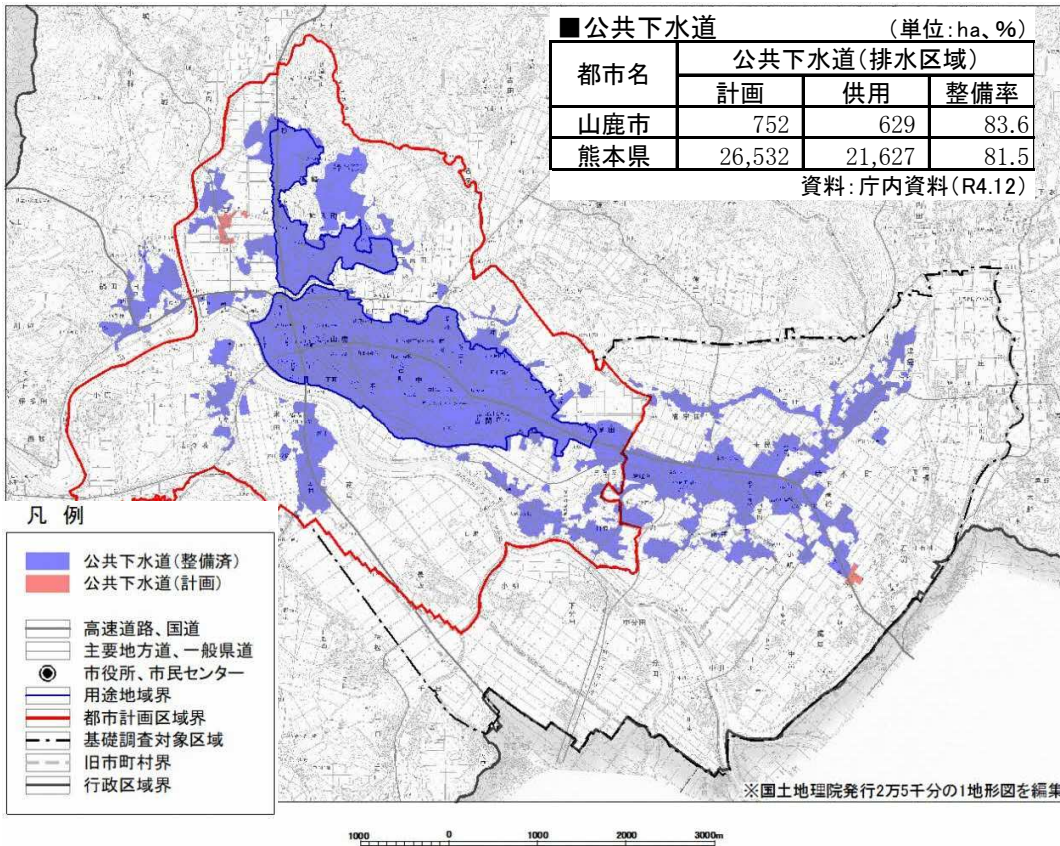
など

【まちづくりの課題】

- ⇒地域住民等との協働による、既存公園の適正な維持管理、機能及び魅力向上
- ⇒国土保全、環境、レクリエーション、景観など多面的機能の享受に向けた森林や河川、農地の適正管理
- ⇒郷土愛の根源ともなる豊かな自然環境や歴史文化資源などの地域資源の保全・継承と活用
- ⇒地域の誇りとなる歴史的景観、営みが調和する田園景観、生活に潤いをもたらす自然景観など多様で特色ある景観の保全・活用
- ⇒自然と共生共存する低炭素まちづくりの推進

①現況等

- ・ 公共下水道の整備率は83.6%となっています。
- ・ 公共下水道以外の区域では、農業集落排水、小規模集合排水及び合併処理浄化槽等により処理しています。



②上位関連計画・社会経済情勢

【総先導】

下水道広域化推進総合事業

【総基幹】

公共下水道処理施設等の維持管理、農業集落排水処理施設等の維持管理、公共下水道・農業集落排水事業の接続推進、合併処理浄化槽設置の推進、社会体育施設環境の充実

【区域：案】 厳しい都市経営の現状

- 【総先導】 : (R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・先導施策
- 【総基幹】 : (R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・基幹施策
- 【戦略】 : (R2.3) まち・ひと・しごと創生 第2期山鹿市総合戦略
- 【区域】 : (R4改定：案) 山鹿都市計画区域マスタープラン（熊本県）
- 【社経】 : 社会経済情勢

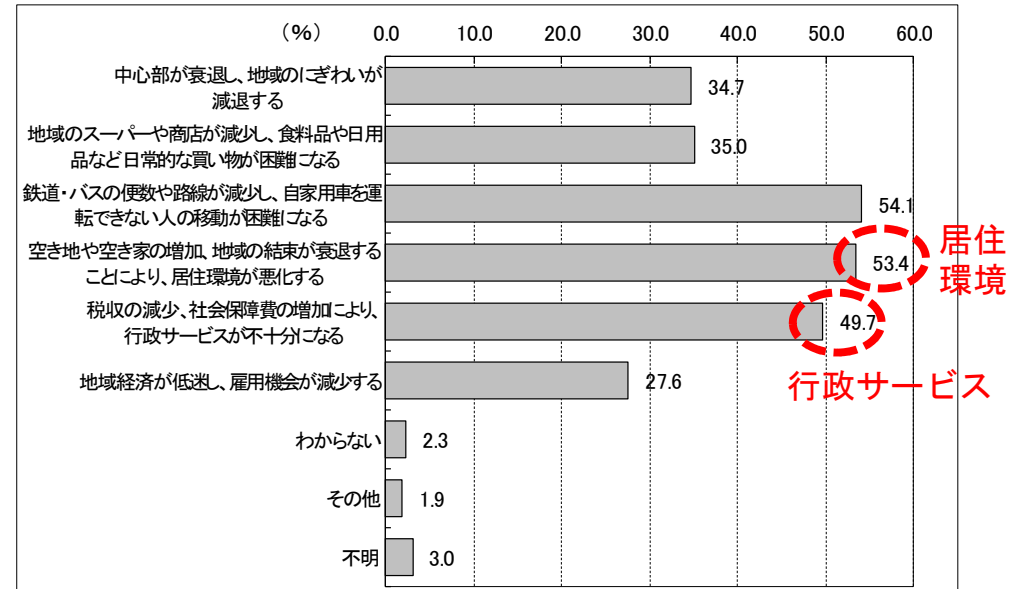
③市民意向

【問18】人口減少・高齢化の進展による問題では、将来的な居住環境、行政サービスに不安を感じています。

問18_人口減少・高齢化の進展による問題

3LA

	【回答総数 1016 人】
① 中心部が衰退し、地域のにぎわいが減退する 利用者の減少により、地域のスーパーや商店が減少	353 件 (34.7 %)
② し(無くなり)、食料品や日用品など日常的な買い物が困難になる	356 件 (35.0 %)
③ 鉄道・バス利用者の減少により、便数や路線が減少し(無くなり)、子どもや高齢者など自家用車を運転できない人の移動が困難になる	550 件 (54.1 %)
④ 空き地や空き家の増加、地域の結束(コミュニティ)が衰退することにより、居住環境が悪化する	543 件 (53.4 %)
⑤ 税収の減少、社会保障費の増加により、行政サービス(道路等のインフラや福祉・介護、公共施設の管理等)が不十分になる	505 件 (49.7 %)
⑥ 地域経済が低迷し、雇用機会が減少する	280 件 (27.6 %)
⑦ わからない	23 件 (2.3 %)
⑧ その他	19 件 (1.9 %)
不明	30 件 (3.0 %)



④現行計画の検証・各課ヒアリング

【ヒア】水道事業の安定経営

【ヒア】社会教育施設の老朽化

【ヒア】子育て支援施設のあり方（統廃合）の検討

【検証】農業集落排水施設の統廃合や単独更新

【取組実績】

≫公共下水道と農業集落排水との統廃合事業

≫浄化槽設置整備事業

≫老朽管更新・施設整備工事（上水）

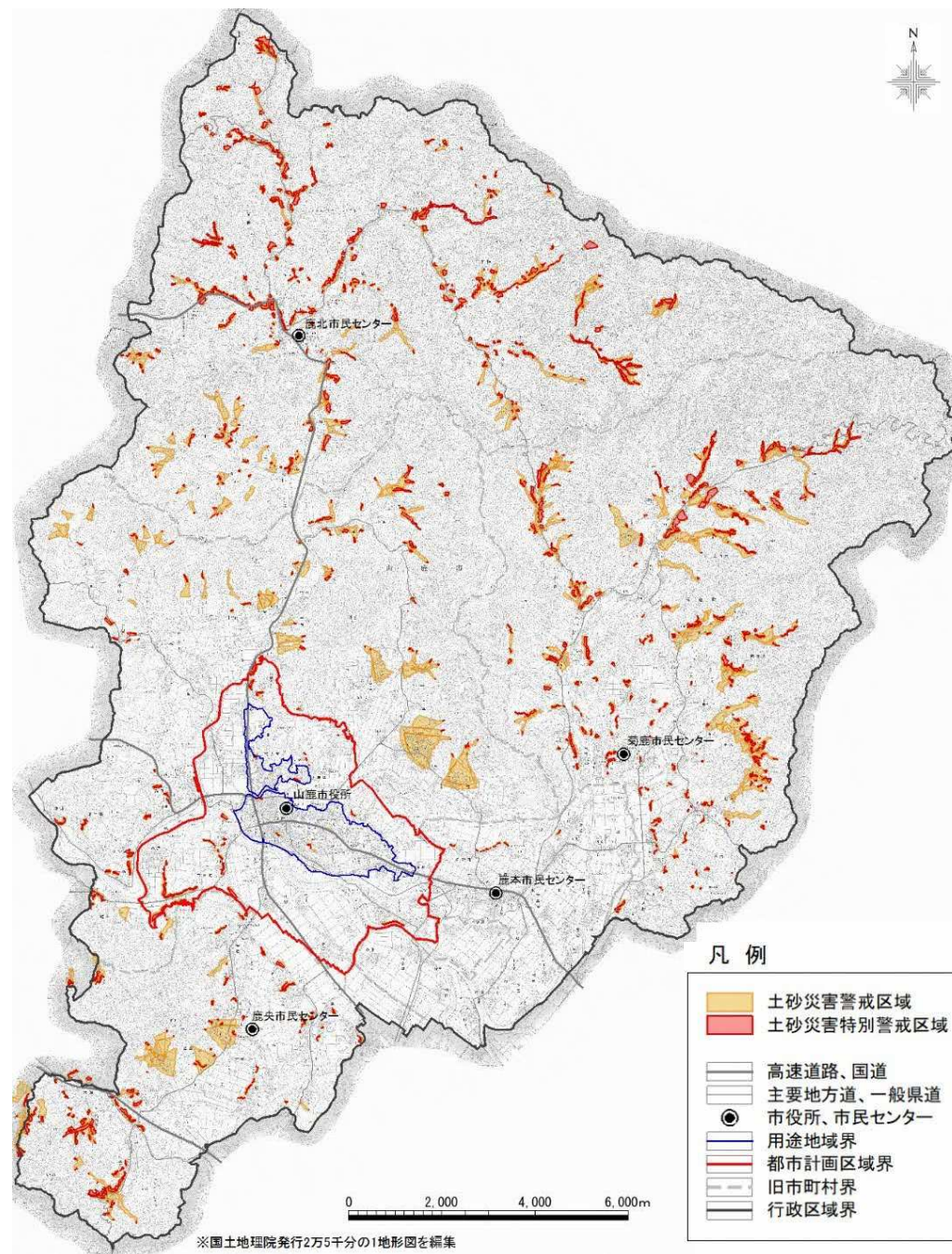
など

【まちづくりの課題】

⇒都市施設の長寿命化と維持管理の効率化

①現況等

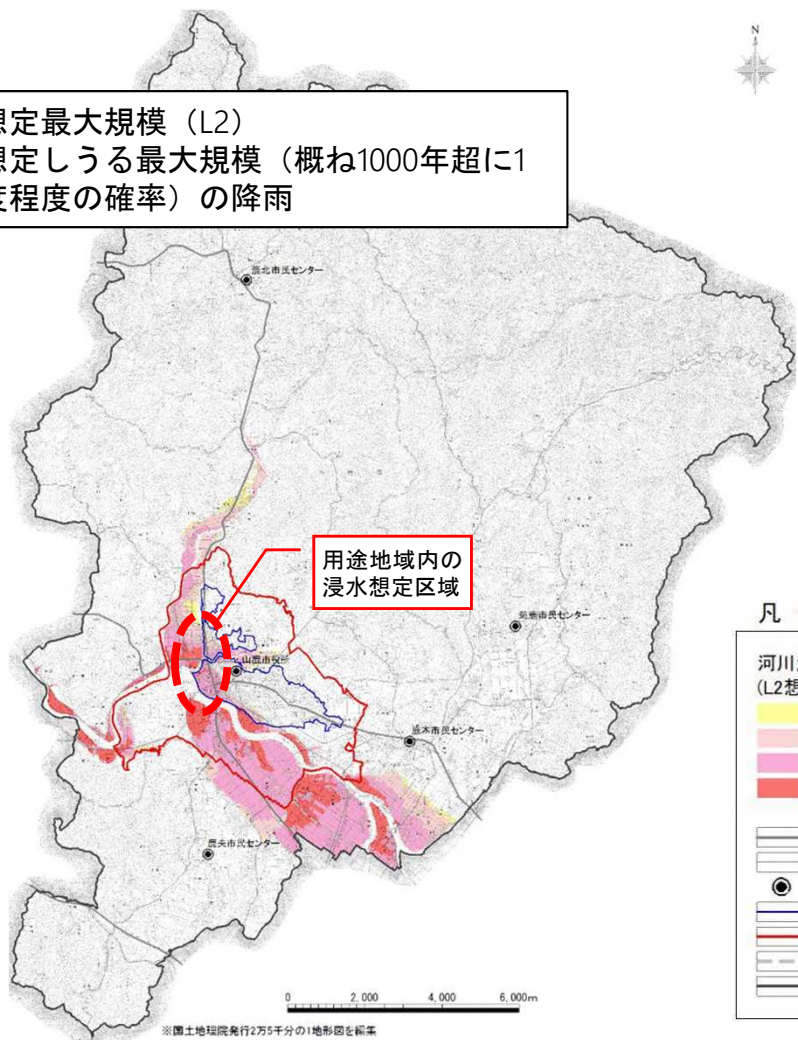
- 山際に位置する市街地や集落地の一部に土砂災害（特別）警戒区域が指定されています。



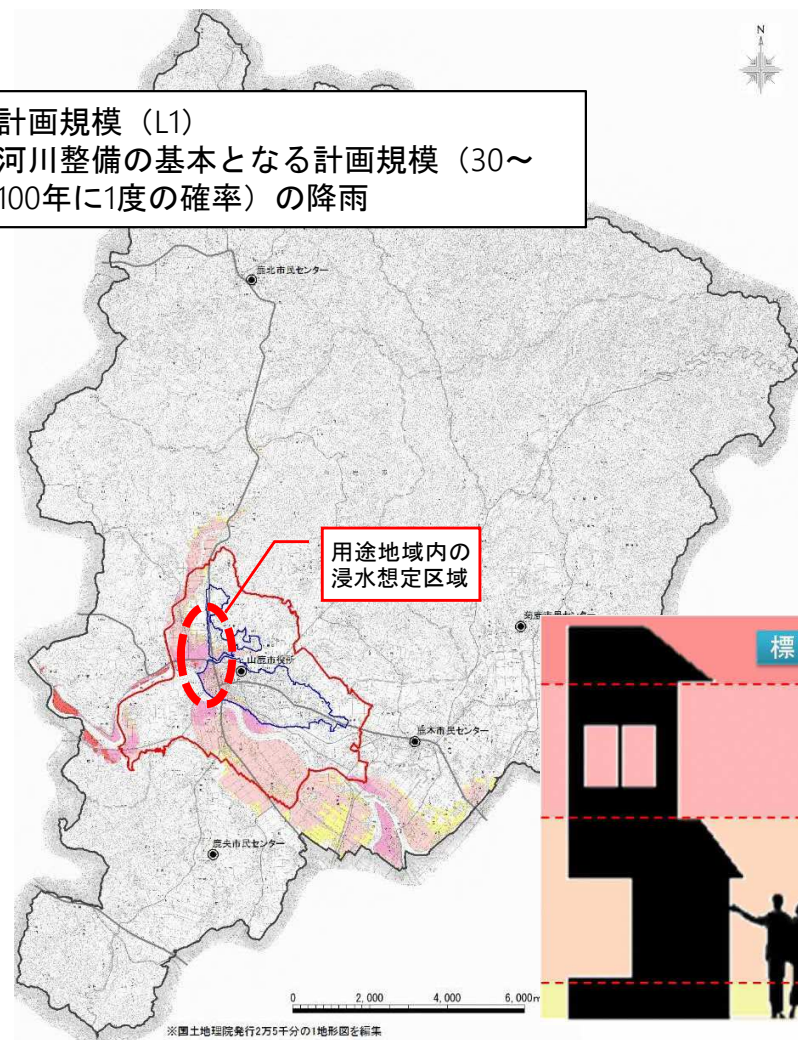
①現況等

- ・用途地域内においても、山鹿市中央通り交差点周辺では浸水想定区域が想定されています。

想定最大規模 (L2)
 想定しうる最大規模 (概ね1000年超に1
 度程度の確率) の降雨



計画規模 (L1)
 河川整備の基本となる計画規模 (30~
 100年に1度の確率) の降雨

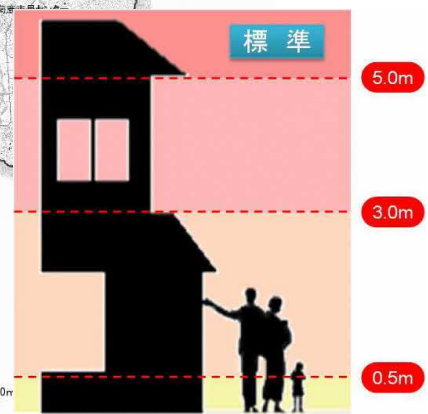


凡例

河川洪水浸水想定区域 (L2想定最大規模)

- 浸水深 0.5m未満
- 浸水深 0.5m~3.0m未満
- 浸水深 3.0m~5.0m未満
- 浸水深 5.0m以上

高速道路、国道
 主要地方道、一般県道
 市役所、市民センター
 用途地域界
 都市計画区域界
 旧市町村界
 行政区区域界

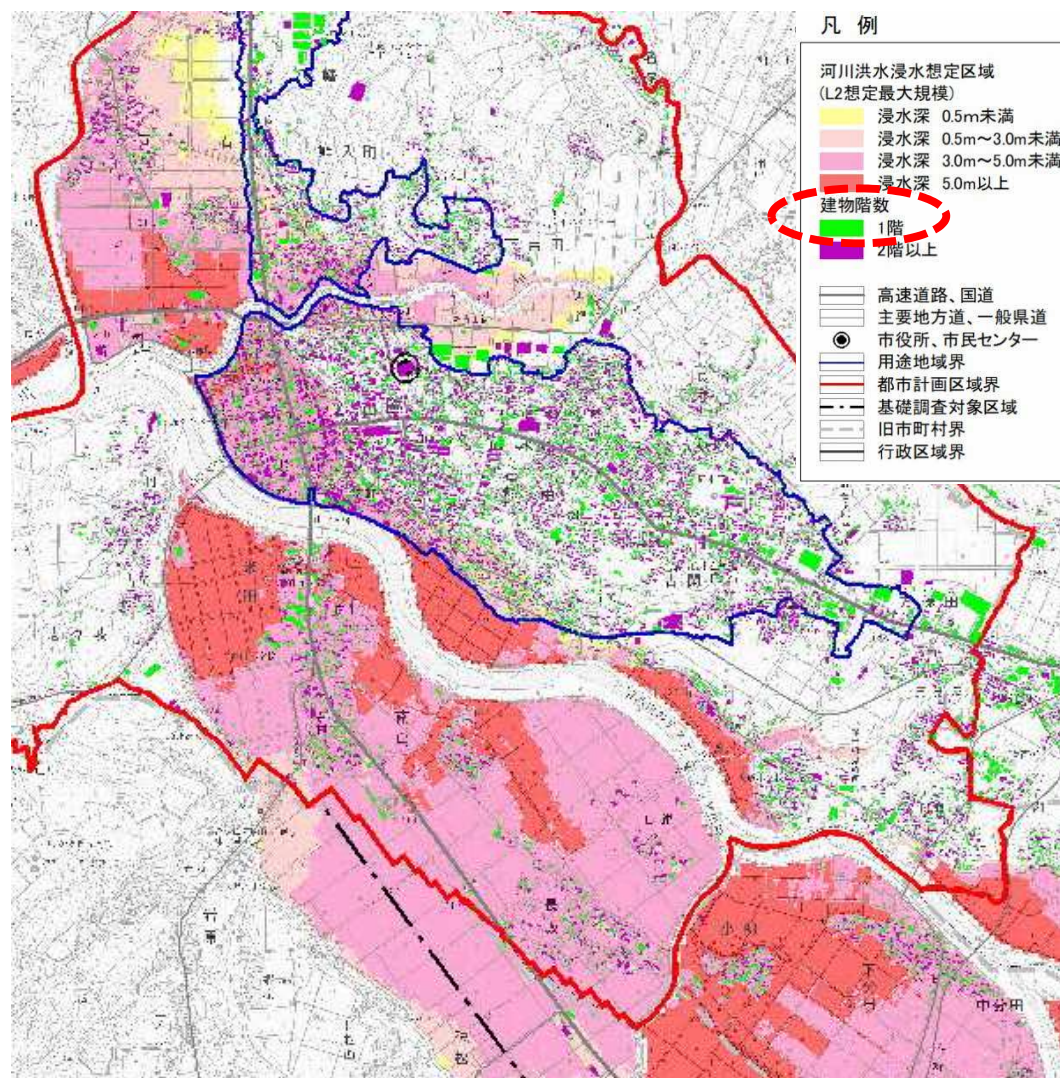
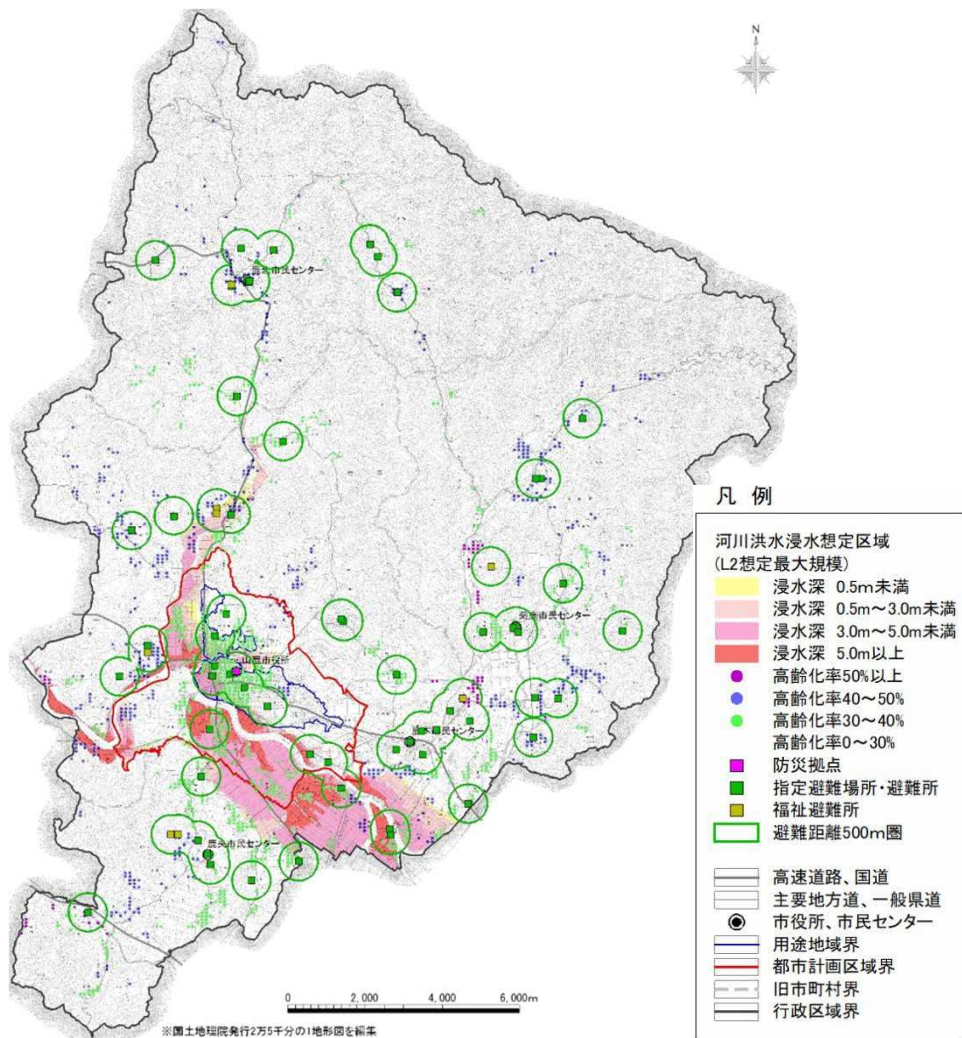


※国土地理院発行2万5千分の1地形図を編纂

※国土地理院発行2万5千分の1地形図を編纂

①現況等

- ・洪水浸水想定区域（L2）内の高齢者の50.6%が避難場所等500mの圏外となっています。
- ・洪水浸水想定区域（L2）に位置する建物のうち、3m以上の浸水深が想定される区域に位置する1階建ての建物は30.3%となっています。



②上位関連計画・社会経済情勢

【総先導】

安全で安心な住まいづくり事業

【区域：案】

安全・安心に暮らせる地域づくりへの対応

【社経】

頻発・激甚化する自然災害

【総先導】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・先導施策

【総基幹】：(R3.8) 第2次山鹿市総合計画（後期基本計画）・基幹施策

【戦略】：(R2.3) まち・ひと・しごと創生 第2期山鹿市総合戦略

【区域】：(R4改定：案) 山鹿都市計画区域マスタープラン（熊本県）

【社経】：社会経済情勢

③市民意向

【問28】公園・緑地等の整備では「防災」機能への高い意識が伺えます。

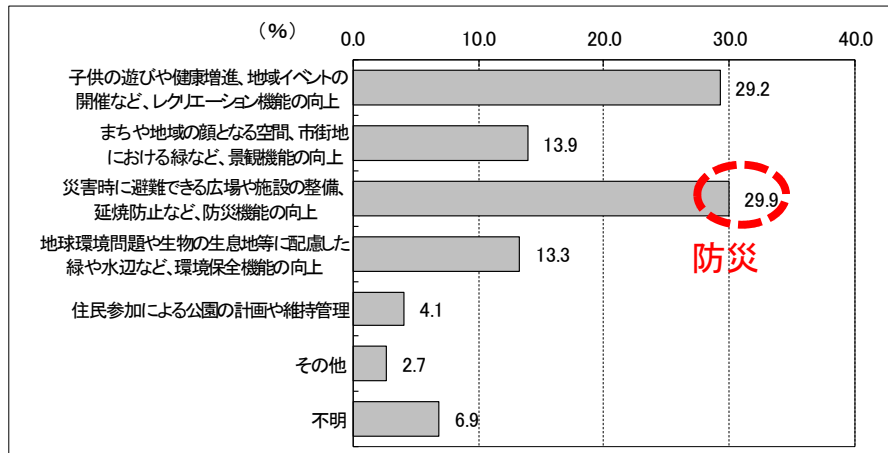
【問29】災害に対する備えでは、ハード対策を継続しつつ、自助・共助に向けた防災意識の向上が重要と考えられます。

問28_公園・緑地等の整備について

SA

【回答総数 1016 人】

① 子供の遊びや健康増進、地域イベントの開催など、レクリエーション機能の向上	297 件 (29.2 %)
② まちや地域の顔となる空間、市街地における緑など、景観機能の向上	141 件 (13.9 %)
③ 災害時に避難できる広場や施設の整備、延焼防止など、防災機能の向上	304 件 (29.9 %)
④ 地球環境問題や生物の生息地等に配慮した緑や水辺など、環境保全機能の向上	135 件 (13.3 %)
⑤ 住民参加による公園の計画や維持管理	42 件 (4.1 %)
⑥ その他	27 件 (2.7 %)
不明	70 件 (6.9 %)

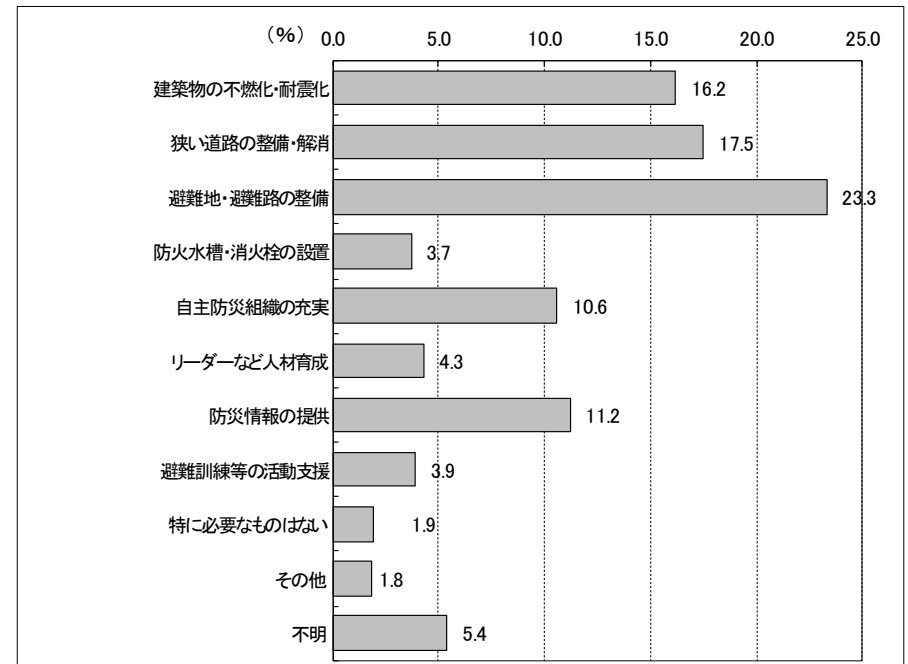


問29_災害に対する備えについて

SA

【回答総数 1016 人】

① 建築物の不燃化・耐震化	165 件 (16.2 %)
② 狭い道路の整備・解消	178 件 (17.5 %)
③ 避難地・避難路の整備	237 件 (23.3 %)
④ 防火水槽・消火栓の設置	38 件 (3.7 %)
⑤ 自主防災組織の充実	108 件 (10.6 %)
⑥ リーダーなど人材育成	44 件 (4.3 %)
⑦ 防災情報の提供	114 件 (11.2 %)
⑧ 避難訓練等の活動支援	40 件 (3.9 %)
⑨ 特に必要なものはない	19 件 (1.9 %)
⑩ その他	18 件 (1.8 %)
不明	55 件 (5.4 %)



④現行計画の検証・各課ヒアリング

【ヒア】 浸水想定区域の市街地の将来的な土地利用のあり方の検討

【ヒア】 安全なまちづくり

【ヒア】 農業に加え防災減災など多面的機能を有する排水機場の維持

【ヒア】 ため池の防災減災対策（防災重点ため池が147箇所）

【ヒア】 建築物耐震化の促進

【検証】 カルチャースポーツセンターにおける防災機能強化の検討

【検証】 上下水道の管更新

【検証】 建築物耐震化の促進、危険ブロックの解消

【検証】 防災マップの更新、地域防災組織活動の充実と活性化、防災意識の高揚

【取組実績】

- ≫ 森林環境譲与税事業
- ≫ 山鹿市建築物耐震診断事業
- ≫ 山鹿市戸建木造住宅耐震改修等事業
- ≫ 防災マップ作成
- ≫ 自主防災組織育成事業

など

【まちづくりの課題】

⇒災害に備えた治山・治水事業

⇒防災インフラの整備促進（河川整備、狭あい道路の解消等）

⇒建築物の安全性確保（耐震化等）

⇒防災リスクを勘案した土地利用の推進

⇒市民や事業者との協働による地域防災力の向上や防災体制の充実（ソフト対策の充実）

